

よこはま安全・安心プラン

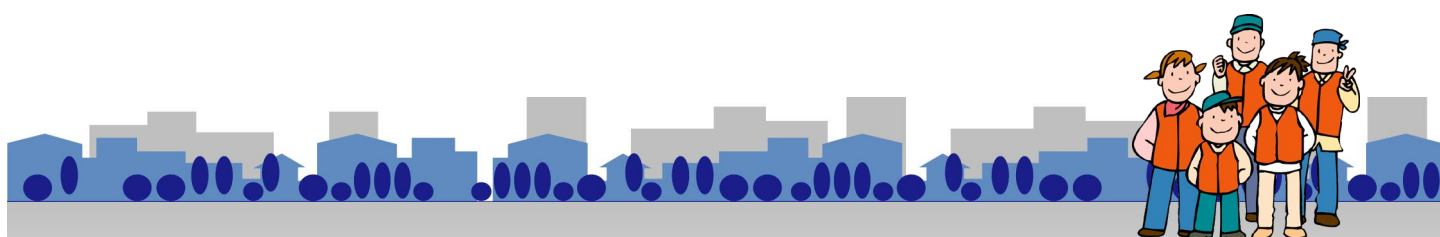
～ 地域防犯力の向上をめざして ～

<資料編更新版>



令和4年7月

横浜市



はじめに

本市における犯罪の発生状況は、平成 16 年まで増加傾向にあり、空き巣やひったくりなど市民の皆様身近な場所で発生する犯罪が増え、刑法犯認知件数が過去最高となるなど、市民生活に大きな影響を与えていました。

そこで本市では、防犯対策は緊急の課題であるという認識に立ち、今後の防犯対策などを示した「よこはま安全・安心プラン～地域防犯力の向上をめざして～」を平成 17 年 11 月に策定し、「自分たちのまちは、自分たちで守る」を防犯対策の基本として、地域の皆様や神奈川県警察など関係団体の皆様とともに横浜の防犯力を一層強化してきました。

その結果、刑法犯認知件数は経年的に減少傾向を示すようになり、令和 3 年の刑法犯認知件数は、平成 16 年のピーク時から 6 分の 1 程度にまで減少しました。

しかし、依然として年間 1 万件を超える刑法犯が発生しています。また、家族を思う気持ちにつけ込む極めて卑劣な犯罪である特殊詐欺は、発生件数、被害金額とも高い水準で推移しています。

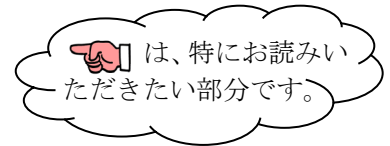
こうした状況を受け、このプランでは、市民の皆様の安全・安心を確保するため、身近な犯罪に対する各家庭での防犯対策や、地域におけるコミュニティの重要性を再認識し、「横浜における地域防犯のこれからの取組」を定めています。安心が実感できる街の実現に向け、一人でも多くの市民の皆様にこのプランを活用していただき、地域の防犯力の強化に役立てていただきたいと思います。

横浜市市民局地域防犯支援課

〈本プランの構成〉

- ・ 「基本編」は、このプランの中心をなす部分であり、横浜における防犯に関する現状や地域で行われている行動、これからの取組の方向を記したパートです。
- ・ 「資料編」は横浜における防犯に関する資料を掲載するパートです。

〈 目 次 〉



序 プランの位置づけ	…2
------------	----

【基本編】

第1章 横浜における犯罪発生状況	…4
------------------	----

1 横浜市の犯罪発生傾向	4
--------------	---

第2章 横浜におけるこれまでの取組と課題	…5
----------------------	----

1 取組の現状	5
---------	---

2 防犯活動を進めていく上での課題	6
-------------------	---

第3章 横浜におけるこれからの取組	…7
-------------------	----

1 基本的な方向	7
----------	---



2 地域防犯の推進体制	9
-------------	---



3 地域防犯を推進する取組	10
---------------	----



コラム

犯罪に巻き込まれないためには 1	14
------------------	----

犯罪に巻き込まれないためには 2	23
------------------	----

犯罪を遠ざける4つのポイント	24
----------------	----

あなたの身の回りに迫る犯罪について…	25
--------------------	----

【資料編】

1 横浜市の犯罪情勢	26
------------	----

2 防犯に対する市民意識	32
--------------	----

3 横浜市における防犯に関する取組の状況	45
----------------------	----

4 用語集	56
-------	----

5 策定経過	58
--------	----

6 委員会名簿	58
---------	----

序 プランの位置づけ

1 プランの目的

- ・ 地域の防犯力向上に関する市及び市民の主体的な取組を総合的かつ計画的に進めることにより、市民の犯罪被害のリスクを減らし、市民生活の安心感を高め、横浜市のまちの魅力を増進することを目的とします。

2 プランの対象

- ・ 主として市民生活に身近な犯罪（侵入盗、自動車盗、自転車盗、ひったくり、振り込め詐欺、子どもの連れ去り、強制わいせつ、放火等）を対象とします。
- ・ この計画における「防犯」とは、犯罪の事前予防を指し、主として犯罪の発生の機会や状況に着目して犯罪を減らす取組を対象とします。

3 プランの性格

- ・ 横浜市の犯罪情勢や地域の状況を踏まえ、地域の防犯力向上のための基本的な考え方や方策、推進体制を示した計画とします。
- ・ 横浜市・地域・関係機関が連携して、まちの防犯力向上を推進するための取組や仕組みづくりをまとめたものとします。

○対象とする取組について

		身近な犯罪	凶悪犯罪等
事前	青少年健全育成等 (社会的犯罪予防)	計画の対象	警察による事前対策 等
	防犯まちづくり (状況的犯罪予防)		
事後	被害者支援等	被害者のカウンセリング 加害者の更生 等	警察や裁判所などによる対応 被害者に対する支援 等

「社会的犯罪予防」と「状況的犯罪予防」について

犯罪学者のアンソニー・ボトムズによれば、子どもがチョコレートを盗むことで例えると、家庭内でしつけを行い、引き出しに鍵をかけなくても盗まれないようにするのが「社会的犯罪予防」であり、両親が引き出しに鍵をかけてチョコレートを盗まれないようにするのが「状況的犯罪予防」であるとのこと。

○対象とする身近な犯罪について(普段の市民生活において被害者になりうる犯罪)

住まいにおける犯罪		<ul style="list-style-type: none"> ・ 侵入盗(空き巣、忍込みなど) ・ 乗り物盗(自動車、オートバイ、自転車など) ・ その他(振り込め詐欺、共同住宅の共用空間における強制わいせつ、放火など) 	凶悪犯罪等 <ul style="list-style-type: none"> ・ 殺人 ・ 強盗 ・ 強姦 ・ その他 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> 基本的に警察が対応 </div>
地域における犯罪	身近な店舗・スーパー、金融機関等における犯罪	<ul style="list-style-type: none"> ・ ひったくり ・ すり、置き引き、車上ねらい ・ 乗り物盗(自動車、オートバイ、自転車など) 	
	学校(園)に関する犯罪	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校侵入に関する犯罪(不法侵入など) ・ 通学路における犯罪(子どもに対するいたづらや暴力など) 	
	身近な公共空間における犯罪(街頭犯罪)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公共空間における暴行、傷害などの粗暴犯、強制わいせつなど ・ その他(万引き、スキミングなど) 	

第1章 横浜における犯罪発生状況及び取組と課題

1 傾向

犯罪発生認知件数は、全国では平成14年、横浜市では平成16年にピークをむかえ、以降減少傾向に転じています。内訳としては窃盗犯など、身近な犯罪が大半を占めています。

また、市政への要望としても平成15年以降、「防犯対策」が上位にランクされています。
(詳細は資料編26P参照)



本冊子のナビゲーターを務める
パト・ハートです。
みなさんに注目ポイントを
ご案内いたします。
どうぞよろしくお願いいたします！

子どもの安全や防犯に関する活動により親しみをもっていただき、子どもたちを地域みんなで見守っていくための「シンボルマーク」です。

愛称は「パト・ハート」

【パトロール+ハート=パト・ハート】が由来です。

地域のみんなとのコミュニケーションを大切にし、日々防犯パトロールをしています

第2章 横浜におけるこれまでの取組と課題

1 取組の現状

- 横浜における防犯に関する取組の現状は、下表のように整理されます。

<p>情報提供と意識啓発</p>	<ul style="list-style-type: none"> 警察から提供された犯罪発生等の情報を、区や町内会等が小冊子やニュース、携帯メール、ホームページにより地域の住民へ提供。 警察等の協力により、地域やPTAが防犯講習会等を開催。また、あいさつ運動やチラシ・ポスターなどにより、啓発活動の実施。 各区において、自治会町内会、行政、警察を中心に協議会組織の設置。
<p>住まい等の防犯対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの住まいでは、家の周りの清掃などによる管理の強化、庭木のせん定などによる周囲からの死角解消、玄関ドアの錠の改善、留守にするときの声掛けなど、ご近所の協力による防犯対策の実施。 商店街では、商店会による防犯パトロールや防犯カメラの設置。
<p>子どもの安全確保</p>	<ul style="list-style-type: none"> 毎月1日と10日を「横浜市子どもの安全の日」に制定し、子どもや保護者等の防犯意識向上を図るための啓発活動の実施。地域が取り組む見守り活動を支援。 子ども110番の活動に取り組む事業所等による「子どもの安全ネットワーク会議」の開催を通し、警察等関係機関との連携強化、子どもの見守り活動の地域ぐるみでの推進。 学校と保護者・地域の方々との連携・協働による、学校内や通学路での安全を見守る「よこはま学援隊」の活動。 *地域で定着しており、子どもたちの安全確保に大きな力となっています。
<p>地域における防犯活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自治会町内会を中心にPTA、ボランティア団体等とも連携した防犯パトロール。防犯マップの作成。 警察による地域パトロール、地域や区などによる青色回転灯装着車を使用したパトロールの実施。 町内会館等を利用した防犯拠点の増加。 *防犯パトロール・情報・地域交流等の機能を併せ持っている例もあります。
<p>道路・公園・広場などの整備・管理</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域や区・市による、違法駐車や放置自転車、違反広告物の撤去活動、公共施設等の清掃等管理活動、その他不法投棄への対策。 夜間の暗がりの解消に対し、防犯灯などの設備の設置、一部地域での門灯・玄関灯の点灯促進。 *地域の要請等に応じ、公共施設等の管理者が、防犯上問題のある箇所について改善を行う場合があります。 *区・市における住宅・公共空間等の整備・管理に関する条例や施策において、防犯への配慮を含んだものがあります。

2 防犯活動を進めていく上での課題

5 ページの取組の現状と、地域で活動する方々のアンケートを踏まえ、これからの防犯に関する取組を進めていく上で必要な課題を整理します。

① 市民の防犯意識の向上

子どもからお年寄りまで、市民一人ひとりが

- 犯罪の被害に遭わないためには何をすべきか
- 自分で出来ることは何か
- 地域で出来ることは何か

という防犯に対する意識を高めていく必要があります。

② 世代を超えた地域のコミュニティーづくり

犯罪の起きにくい地域をつくり、犯罪の被害に遭うリスクを軽減するためには、世代を超えて地域の絆を強化するとともに、様々な地域活動を持続するなどして、防犯力を高めていく必要があります。

第3章 横浜におけるこれからの取組

1 基本的な方向

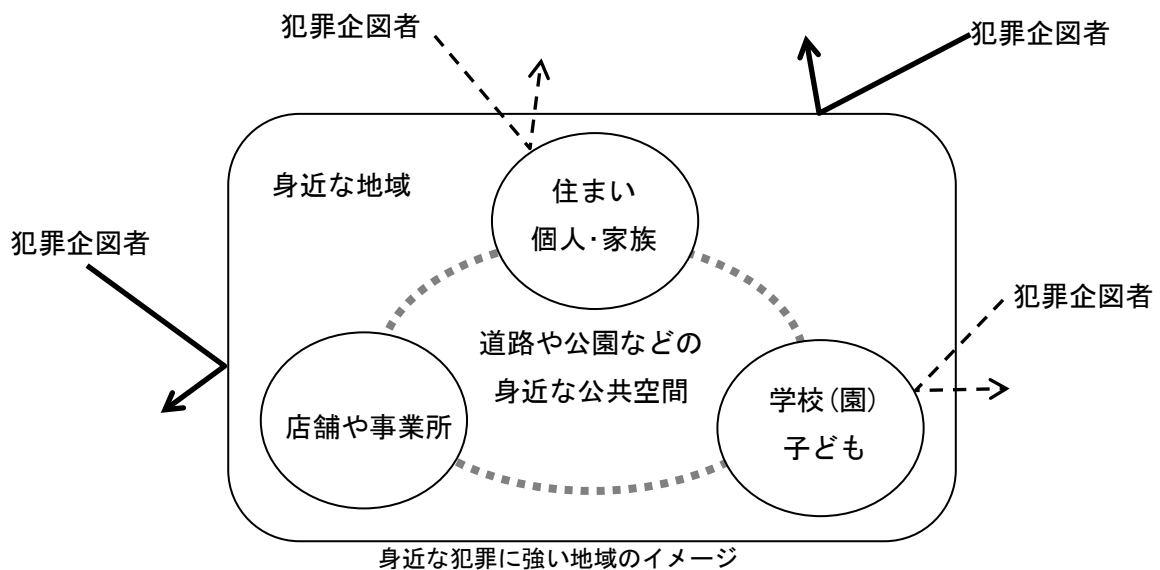
(1) 基本的な考え方～地域防犯の考え方

- ・ 犯罪をなくすことは大変難しいことです。しかし、一時的な犯罪予防だけではなく地域が絶えず犯罪に対して注意し続けることで、犯罪被害のリスクを軽減していくことは可能です。
- ・ そのためには、地域の様々な取組の中に防犯の視点を組み入れていく必要があります。地域における多様な自主的取組を基礎として、地域全体の防犯力の向上を図っていくことが効果的であると考えられます。
- ・ そして、それらの防犯に係る活動を契機としたコミュニティづくりと魅力あるまちづくりを展開していくことが求められます。

地域防犯の展開 ～ 地域のコミュニティづくり・まちづくり

(2) 地域防犯の基本目標

- ・ 地域における自主的な取組が力を合わせることで、犯罪企図者(犯罪を犯そうと企てている人)を寄せ付けない**犯罪に強く快適な地域をつくる。**
- ・ 身近な犯罪の発生を防ぐことにより、横浜市全体の**犯罪を減少**させ、市民一人ひとりの犯罪に対する**不安感を軽減**していく。



(3) 地域防犯の基本方針

- ・ 地域防犯の基本目標を実現するうえでの基本的な方針として、以下の項目を設定します。

基本方針1 市民一人ひとりが自覚し取り組む

市民一人ひとりが地域に目を向け、積極的に防犯活動に参加することで、地域における防犯力の底上げを図る。

基本方針2 地域で力を合わせみんなで取り組む

地域における様々な活動団体が、防犯の視点から活動を見直すことで、日常的な活動を防犯活動と結びつけていく。これにより地域が一体となって防犯力のある地域づくりを目指す。

基本方針3 様々な工夫を行い継続的に取り組む

地域のまちづくりも含めた様々な活動と組み合わせたり、楽しみながら活動を行うなどの工夫により、防犯活動を継続的に行い、長い目で基本目標の実現に取り組んでいく。

基本方針4 地域の状況に応じて取り組む

地域の犯罪特性や、まちづくりにおける課題、まちのコミュニティの状況などを把握し、それらに合わせた取組を検討する。

2 地域防犯の推進体制

(1) 一人ひとりから地域へ

- ・ 地域防犯の基本となる担い手は市民の皆さん一人ひとりです。一人ひとりが主体的に取り組み、それらが集まり、連携・協力することにより、効果的で力強い地域の活動が実現されます。

(2) 関係主体の基本的な役割

■ 市民＝地域の居住者(個人、家族)に期待する役割

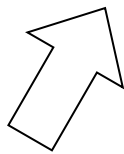
- ・ 地域防犯の基本的な担い手として、自らが犯罪の被害に遭う機会を少なくする取組を自主的に行っていくことが期待されます。

■ 地域団体＝自治会町内会をはじめとした地域で活動する様々な市民団体に期待する役割

- ・ 地域における活動主体として、互いに連携を図りながら、主体的に活動を行っていくことが期待されます。

■ その他＝事業者等(店舗、企業、各種法人)に期待する役割

- ・ 自らの活動により生じる、犯罪を誘発する要因を取り除く努力をすると共に、地域の活動に積極的に関わり、貢献していくことが期待されます。



■ 区・市の役割

- ・ 市民生活の安全・安心の実現を推進する立場から、警察と連携しながら、地域の活動に積極的に関わり支援していきます。

■ 警察に期待する役割

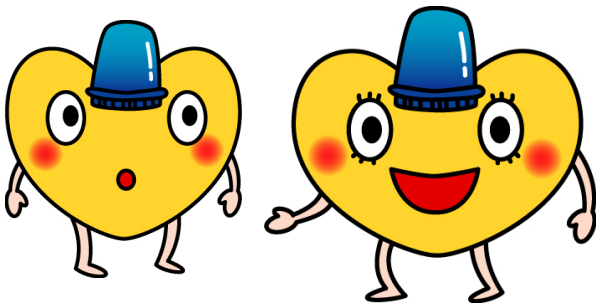
- ・ 地域の治安を守る立場から、地域の活動に積極的に関わり、支援していくことが期待されます。



3 地域防犯を推進する取組

- ・ 横浜における防犯に関する課題を踏まえ、地域防犯の基本的な考え方及び地域防犯の推進体制に基づき取り組んでいくことが求められる事項について、以下の4つの項目に整理します。

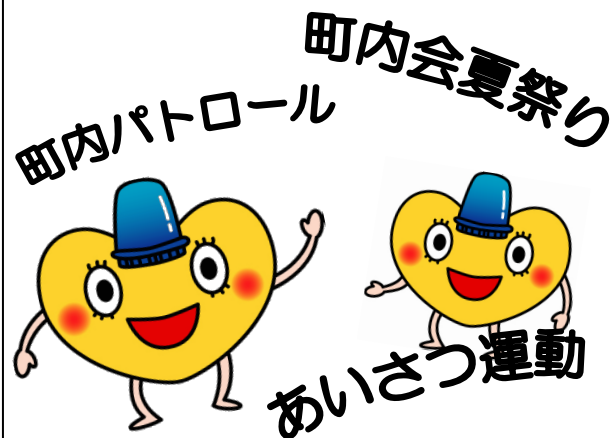
取組1 一人ひとりが地域に目を向け、自ら行動しよう



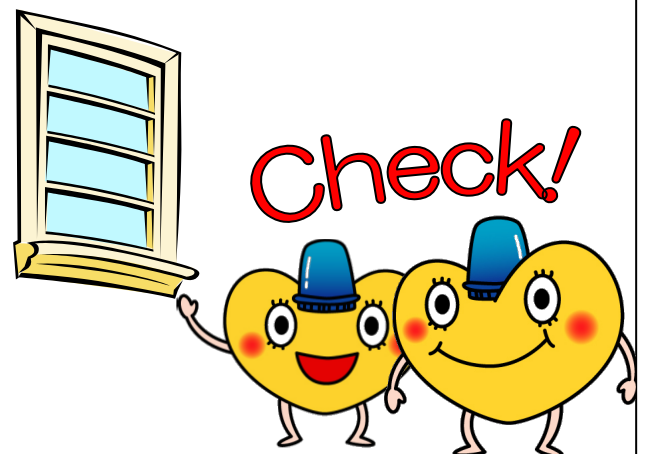
取組2 地域における様々な人たちがつながり、連携を強化しよう



取組3 防犯を含む様々な地域活動に持続的に取り組もう



取組4 個々の建物や公共空間の環境改善に取り組もう



これらの取組についてもっと詳しくご説明します

取組 1 一人ひとりが地域に目を向け、自ら行動しよう

● まずは「私」から

- ・ 私、家族、まちが犯罪の被害に遭わないための方法を知る
- ・ 身近な人と防犯について話し合う
- ・ 不安なことを相談できる人や場所、機会を見つける

● 知っているのと知らないでは大きな違い

- ・ まちで発生した犯罪情報をつかむ
- ・ 最近発生した新しい犯罪の手口の情報をつかむ
- ・ 地域でどんな防犯活動が行われているのか知る
- ・ 日常的な地域活動が防犯につながっていることを知る

● 意外と発見があるものです

- ・ 身の回りを見直したり、地域を歩いてみたりする
- ・ 自分自身の視点で、不安な箇所を探してみる

ご近所で空き巣が発生したみたい
ひったくりもあったって聞くし
心配ね…



この間テレビで空き巣対策には二重鍵がいいって聞いたわ



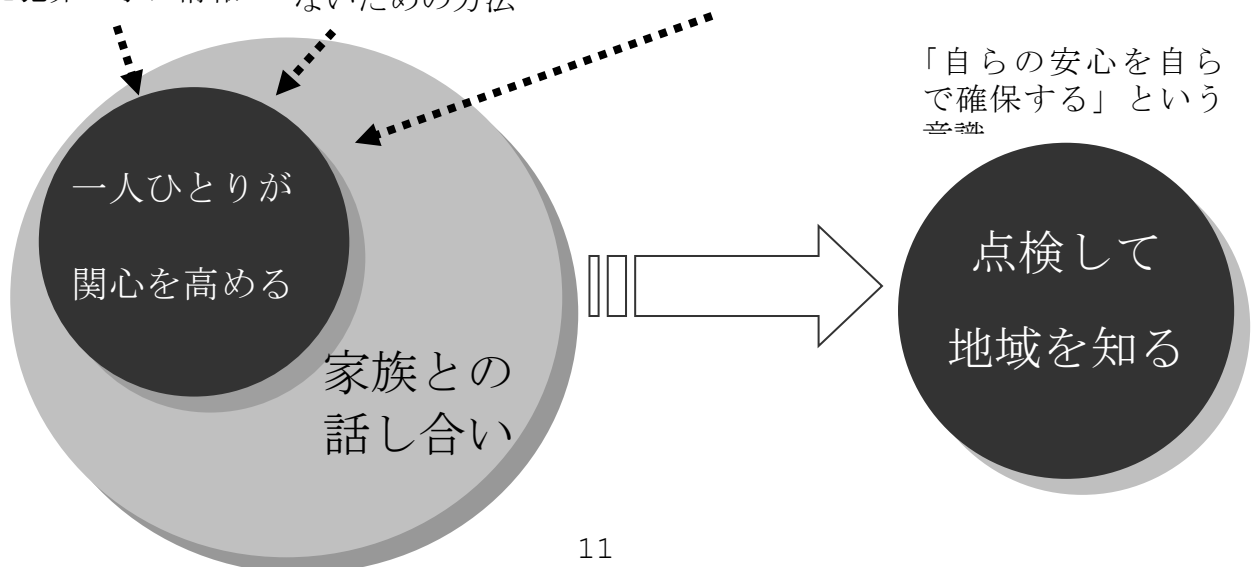
自治会で金曜日に防犯パトロールをやっているらしいから今度参加してみようか



まちで発生した犯罪情報
発生した犯罪の手口情報

犯罪の被害に遭わないための方法

防犯活動の状



【目標とする姿】

- 1 多くの市民が日ごろから自主防犯の意識を持ち、地域における防犯活動に取り組んでいる。
- 2 身近な場所で発生する犯罪状況や自主防犯対策等の情報が、市民に臨機応変かつ迅速に提供されている。
- 3 防犯に関する相談が、市民に身近な場所で受けられるようになっている。

* 防犯活動の盛んな地域では小・中学校の登下校に会わせて、散歩や買い物、自宅の庭木の手入れをしながら、子どもたちの見守り活動を行っています。また町内会の中で出会った人には、知らない人にでも挨拶をしている地域もあります。

【市や一部の区が関連団体や皆様と実施している取組】

□ 広報啓発

1 「横浜市子どもの安全の日」の啓発

「横浜市子どもの安全の日」（毎月1日・10日）に実施する啓発イベントです。区においても地域の実情にあわせキャンペーン活動等の取組を実施しています。

2 関係機関との連携による子どもの安全施策の推進

業界団体、警察署、消防署、区、小学校、保護者等が連携して児童下校時の見守り活動やキャンペーンを実施しています。また関係機関との連絡会で情報共有等しています。

3 女性に対する防犯対策の推進

女性に対する暴力の根絶に向けた防犯対策として、市民向けに暴力防止講座や暴力防止啓発キャンペーンの実施、護身術ワークショップなどを実施する他、若者向けの暴力防止講座を市内中学校・高校・大学で実施しています。

4 市民の体感治安への不安の解消

テレビ・新聞・ホームページ及びフリーペーパー等様々な媒体を活用した防犯対策強化等の広報活動を行うほか、青色回転灯装着車によるパトロール及び啓発活動を行っています。

5 防犯セミナーや防犯講習会などの充実

市民の防犯知識・防犯意識を高めるため、防犯講習会や子ども防犯教室、安全・安心に関する「フォーラム」、「つどい」等を開催しています。

6 学校における防犯教育・防犯訓練・安全対策研修の推進

自治会町内会、小学校の見守り隊を対象とした講習会や安全教室を開催しています。

7 放課後児童に対する防犯対策の推進

子どもたちの放課後の居場所となる「放課後キッズクラブ」、「はまっ子ふれあいスクール」、「放課後児童クラブ」については、不審者への対応を含めた運営マニュアルや安全管理に関する点検項目等に基づき、子どもの安全対策に取り組んでいます。

8 公用車やごみ収集車両を利用した広報の充実

公用車両への防犯ステッカー掲出、拡声器での防犯広報の放送により、市民の防犯意識を高めています。

□情報提供

1 警察などと連携した防犯情報提供の強化

警察との情報提供に係る協定に基づき、地域で発生した犯罪情報等をメーリングリスト登録者のパソコンや携帯電話等へEメール、F a x等で迅速に提供しています。

2 ホームページ、ツイッター等による防犯関連情報の提供

本市各区・局のホームページやツイッター等により、子どもや女性の安全、防犯活動の紹介など防犯に関する各種情報の提供や地域の実情等に合わせた防犯情報の提供を行っています。

3 消防署・所を活用した防犯情報の提供

消防署・所を身近な地域安全のコミュニティの場(安全・安心ステーション)として位置づけ、災害情報や防犯に関する情報を提供しています。

4 掲示板を活用した防犯啓発情報の提供

地域の特性に合わせて、各自治会町内会や区役所の掲示板を活用し、防犯啓発情報を提供しています。

5 防犯マニュアルや事例集情報紙の発行

防犯ニュースの発行や広報よこはまでの防犯特集記事掲載の他、悪質訪問販売、偽水道局職員等についての注意喚起を広報誌やパンフレットに掲載しています。また、実践的な防犯マニュアルである「安全・安心ハンドブック」や事例集などを配布して、防犯知識の周知を図っています。

6 防犯に関するサポートの推進

防犯に関するアドバイスや研修の実施、パトロール用物品の提供を行っています。女性が抱える、DVや暴力等様々な問題のご相談に応じる他、関係機関と連携を図り、きめ細かで切れ目のない支援を実施しています。また、住まいの防犯対策等住宅に関する相談を行っています。

7 防犯教育に関する「指導モデル」の活用

平成21年度に作成した「安全(防犯・防災)教育」指導モデルの活用を図っています。

8 防犯マップづくり等への支援

地域が行う防犯マップづくり等に関し、地域の特性に合わせて、補助金や情報提供等の支援を行っています。

□防犯グッズの提供

1 地域防犯パトロールに使用する防犯グッズの提供

一部の区では、自治会町内会等地域団体が行う防犯活動に必要な腕章やジャンパー、のぼり旗等の防犯グッズを提供しています。

2 小学生への防犯ブザー等の斡旋や貸与

一部の区では、小学生への防犯ブザー等の貸与や購入費補助などを行っています。



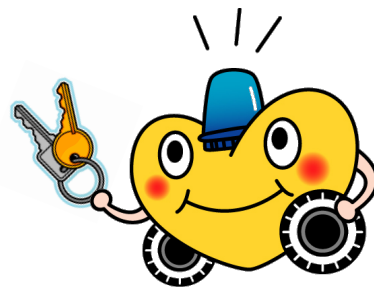
犯罪に巻き込まれないためには…？

●自転車盗・オートバイ盗

- 自転車には複数の鍵を掛ける。
- オートバイを止めるときはキーを抜き、ハンドルロックを掛ける。
- 路上等に放置せず、管理人のいる駐輪場等、決められた場所に止める。

●自動車盗

- 車を離れるときには、わずかな時間であっても、窓を完全に閉めて、キーを抜き、ドアロックをする。
- 盗難防止装置としてバー式ハンドルロック、センサー式警報装置、GPS 追跡装置等、市販の機器を活用する。
- 駐車場に防犯カメラや照明等の防犯対策を施す。



●ひったくり

- バック等は車道と反対側（壁側）に持つ。
- 自転車の前カゴには防犯ネットをつける。
- 遠回りでも明るく広い道を利用する。
- 後方から近づいてくるオートバイ等には注意を払うなど、常に警戒心を持つ。

●痴漢

～帰宅するとき～

- 夜間は遠回りでも明るく人通りの多い道を利用する。
- 深夜の帰宅は、タクシーを利用するか、家人に迎えに来てもらう。
- 万一の場合に備え、防犯ブザーはバッグから出し、手に持って歩く。

～一人暮らしの女性の方へ～

- ドアを開ける前、もう一度周囲に人（不審者）がいないかを確認する。
- ドアを開けたら素早く屋内に入り、すぐに施錠をする。
- 帰宅の際、玄関で「ただいま」などと言いながら入る。

（来訪者には）

- ドアを開ける前に相手を確認する。
 - ドアチェーンを外さないで対応する。
- ※宅配業者等を装う場合もあるので、ドアを開ける前に誰からの配送か確認する。

（その他の工夫）

- 男性の洗濯物（下着）を干す。



ワンポイント！

歩きながらスマホをいじったり、携帯メールやイヤホン等で音楽を聴くことは周囲の状況がわかりづらく危険なのでやめましょう！

取組 2 地域における様々な人たちがつながり、連携を強化しよう

● ご近所でも同じことを考えてるかもしれません

- ・ 「こんなことをしたい」ということを身近な人に相談してみる
- ・ できることから始める

● まちで活動する人たちが手を結ぶ

- ・ まちで活動する団体の人たちが集まり、まちの防犯について話し合ってみる
- ・ まちで活動する団体それぞれが持つ活動を持続させる秘訣や、活動の効果に関する情報を共有する
- ・ みんなで話し合い、地域の実情や活動の実態に合わせて目標を立ててみる

● 老若男女の「たまり場」づくり

- ・ 子どもからお年寄りまで、地元の人から警察や行政の人たちまで、地域の様々な人が自由に集まって出入りできる場所をつくってみる

無理なく活動の輪が広がる環境

活動の輪を広げるには「集う機会」と「集う場所」があることが大事なポイントになります！

* 集う機会 *

- ・ 防犯に関する協議会などの設置や運営
- ・ 情報交換を行うシンポジウムなどの開催

* 集う場所 *

- ・ 自治会館、空き家店舗・教室等の活用
- ・ 新たな拠点の設置（地域にあった立地）



【地域コミュニティの一体感を高めることは、防犯に効果絶大です！】

- ・ 地域の人たちが手を結び、一体感を高めることで、まちのちょっとした変化に気づきやすくなり、また、個人が悩みを相談しやすい環境がつけられ、犯罪の被害に遭うことを未然に防いだり、被害を最小にとどめる可能性が高くなります。



【目標とする姿】

- 1 地域における様々な活動団体が、相互に連携・協力を図って行動している。
- 2 地域で暮らす人たちが気軽に立ち寄れるたまり場がつくられ、利用されている。
- 3 地域でみんなが活動していることについて、地域のみんなが知っている。

*地域における様々な人たちがつながり、連携を強化しましょう！町内会と老人会、警察等が連携し、パトロールを行っている地域や、会員が作成したポスターを町内一円に掲示し、地域住民の防犯意識高揚に努めている地域もあります。

【市や一部の区が関連団体や皆様と実施している取組】

□連携体制…関連団体の連携・協力関係を促進する支援

1 「子どもの安全ネットワーク会議」の開催

子どもの安全に取り組んでいる企業等（子ども110番の家・車・駅等）を主たる対象とした「子どもの安全ネットワーク会議」を開催し、警察等関係機関との一層の連携強化を図るとともに、子どもの見守り活動について、地域ぐるみでの取組を強化しています。

2 女性が考えるまちと暮らしの安全網づくりの支援

女性の視点からの防犯・防災対策の検討、地域の安全網づくりの担い手として女性が力を発揮できるよう、セミナーやワークショップを行っています。

3 地域・警察署・区等の連絡会議等の設置

地域の実情に合わせた形で、安全・安心のまちづくりを進めるため、企業・学校・地域・警察署・区役所等で構成される連絡会議を設置し、情報共有や協力連携を図っています。

4 事業者との連携・協力体制の強化

地域の見守り活動を行う事業者、警察署、区役所等との連携・協力体制の強化を図っています。

5 防犯セミナーや防犯講習会などの充実 <再掲>

市民の防犯知識・防犯意識を高めるため、防犯講習会や子ども防犯教室、安全・安心に関する「フォーラム」、「つどい」等を開催しています。

6 保育園における防犯対策の推進

地域や警察と連携して情報提供や研修などを実施しています。

□ 防犯拠点・居場所づくり

1 地域防犯拠点の拡充支援

地域の自主防犯パトロールの起点として、また、防犯に関する情報交換の場として活用するための地域防犯拠点の設置を支援しています。

2 放課後児童育成事業における防犯対策の推進

子どもたちの放課後の居場所となる「放課後キッズクラブ」、「はまっ子ふれあいスクール」、「放課後児童クラブ」では運営マニュアルや安全管理に関する点検項目等に基づいた子どもの安全対策に取り組むほか、スタッフを対象とした防犯対策等に関する研修を行っています。また、児童に係る犯罪等が発生した際の「犯罪情報の緊急連絡体制」を整え、注意喚起を行う区もあります。

取組 3 防犯を含む様々な地域活動に持続的に取り組もう

● まち全体を見守り・目配り（パトロール）

- ・ 小さな子どもや児童、一人暮らしのお年寄りなどを見守り、あいさつを試みる
- ・ 青少年や来街者などに目を配り、あいさつを試みる
- ・ 近所の公園の施設や路上駐車など、身近な環境に目を配るとともに、清掃活動や啓発活動などを行ってみる

● 「楽しみながら」や「ついで」が大切

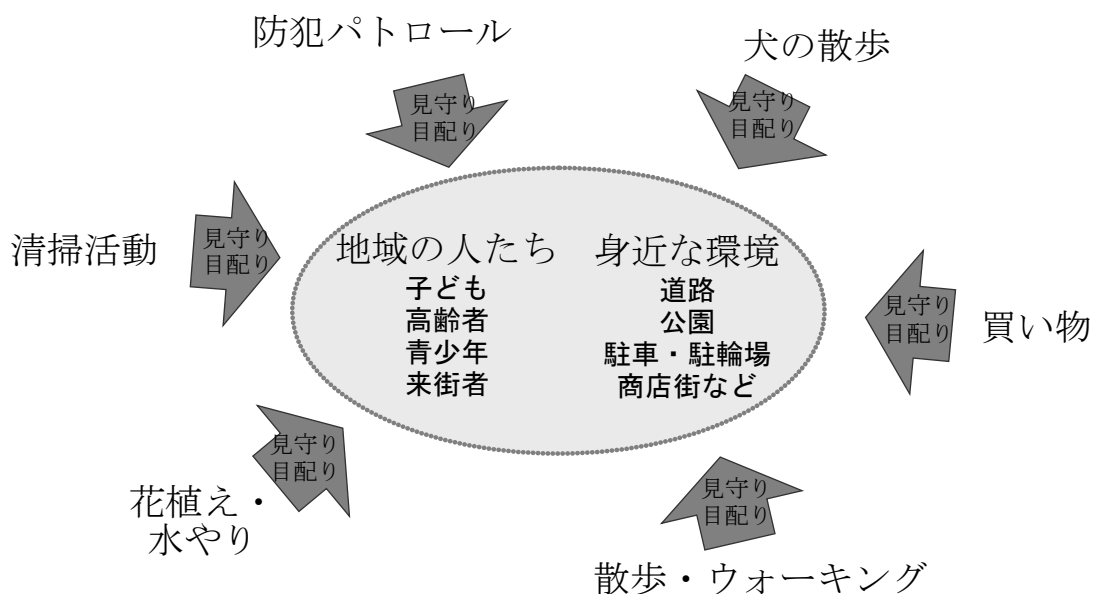
- ・ イベントやレクリエーションに合わせて活動してみる
- ・ 買い物、家の前の掃除、散歩など、日常生活の何かに合わせて見守り・目配りをする
- ・ 様々な活動方法について情報収集してみる

● 無理ない分担であなたも地域デビュー

- ・ 働いている人の時間に合わせた活動で参加者を増やしてみる
- ・ 全員で少しずつ分担して、一人ひとりの負担を軽くしてみる



地域



【目標とする姿】

- 1 地域における防犯活動が拡大するとともに、活動の継続について様々な工夫がなされている。
- 2 特定の人にかたよることなく、防犯活動への参加者が拡大している。
- 3 地域に暮らす人たちが、日常的な活動に防犯の視点を取り込んで行動している。

＊防犯を含む様々な地域活動に持続的に取り組んでみましょう！

駅前での防犯キャンペーンや、防犯チラシやポスター等を配付するなど定期的な啓発活動や、危険箇所の点検運動等を通じての自主防犯意識の高揚に努めている地域もあります。

【市や一部の区が関連団体や皆様と実施している取組】

□ パトロール・見守り

1 青少年を取り巻く社会環境の実態把握

有害図書類の適正な区分陳列促進対策のほか、各地域の社会環境の実態を把握するために、全青少年指導員が全市一斉の夜間パトロールを実施しています。

2 地域防犯パトロールに使用する防犯グッズの提供 《再掲》

一部の区では、自治会町内会等地域団体が行う防犯活動に必要な腕章やジャンパー、のぼり旗等の防犯グッズを提供しています。

3 地域防犯活動の立上げ支援

地域における防犯活動の立上に関する相談や情報提供、研修会などを実施しています。

4 登下校時における児童の見守り活動の支援

学校の登下校時における地域での見守りや、よこはま学援隊による校門周辺での見守り活動を推進しています。

5 消防隊等による巡回警戒の推進

消防隊等が、「放火火災対策」や「学校の安全確保に係る連携協力」として巡回警戒を実施しています。

6 わんわんパトロール活動の普及

愛犬と散歩の際にまちの見回りも兼ねて行うわんわんパトロール活動の普及を図り、ボランティア入門講座や広報誌等での周知、リード標などの配付等を行っています。

7 青色回転灯を活用したパトロールへの支援

青色回転灯装着車による防犯パトロールの拡充に向けた支援を行っています。

8 子ども110番制度の拡充

いざというときに駆け込める子ども110番の家や子どもの活動を見守る子ども110番の車の拡充を図り、110番の家のプレートやステッカーを作成し配付しています。

9 地域防犯カメラの設置支援

犯罪の起こりにくい安全なまちづくりに向けた地域の自主的な防犯活動を支援するため、自治会町内会・商店会が道路等の公共空間を撮影する地域防犯カメラを設置する際に、費用の一部を補助しています。

取組 4 個々の建物や公共空間の環境改善に取り組もう

● 一軒一軒からはじめる防犯対策

- ・ 一軒一軒が住まいやお店の防犯診断を受けてみる
- ・ 自分の住まいやお店に自ら防犯対策（錠や窓ガラスなどの設備）を行う

● 一軒一軒がつながる防犯対策

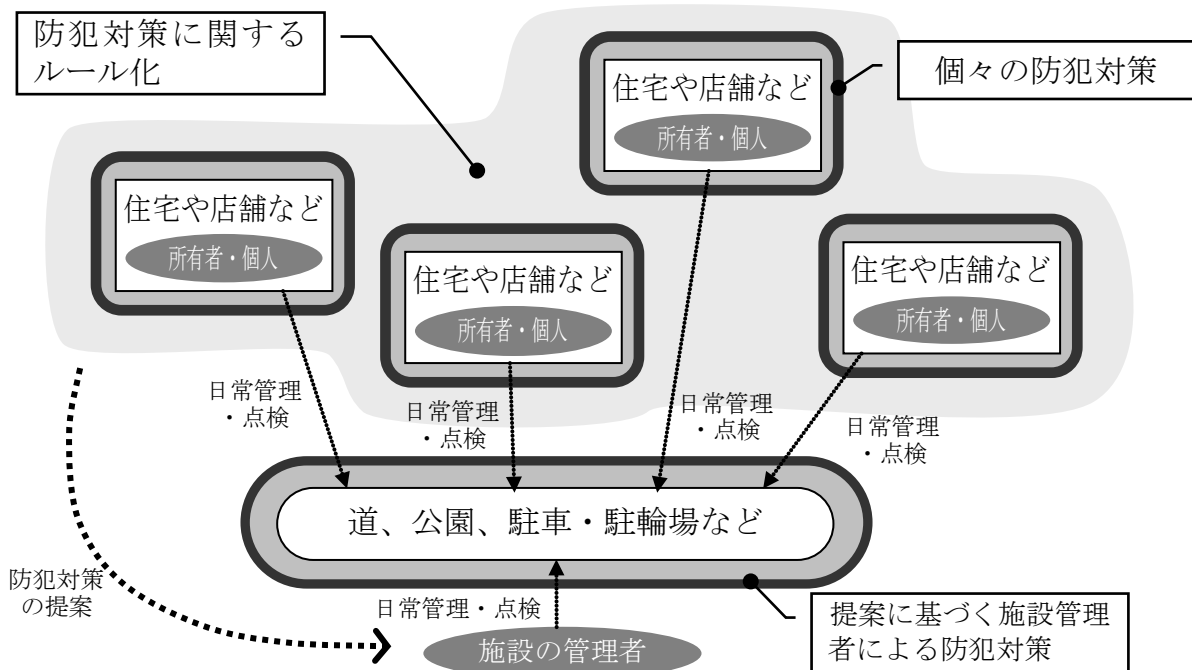
- ・ お隣と防犯対策について話し合ってみる
- ・ 近所でまとまって防犯対策のルールをつくってみる（例えば夜間の門灯の点灯など）

● 道や公園、駐車・駐輪場などの公共空間の防犯対策

- ・ 対策が必要な箇所を見つけて防犯まちづくりの方策を検討してみる
- ・ 対策が必要な箇所を管理している人に改善を提案してみる
- ・ 地域などからの提案をうけて、改善策を検討してみる

● 安心で魅力的な繁華街の環境づくり

- ・ 対策が必要なエリアと対応方策を検討してみる
- ・ 外部の専門団体（NPO等）に協力を要請して、一緒に活動してみる



【「割れ窓理論」とは】

- ・ 建物の窓ガラスを1枚でも割られたままにしておくと、その建物は十分に管理されていないと思われ、ゴミが捨てられ、やがては地域全体の環境が悪化し、凶悪な犯罪が多発するようになるという犯罪理論です。

【目標とする姿】

- 1 各家庭や商店で防犯に対する取組が実施されている。
- 2 各家庭の取組がつながりを持ち、地域的な防犯活動が展開されている。
- 3 道や公園など公共空間における防犯への取組が進んでいる。
- 4 安心して魅力ある繁華街の環境づくりに向けた取組がなされている。

*個々の建物や公共空間の環境改善に取り組んでみましょう。

環境改善に取り組む地域では、道路上の空き缶などゴミの自主的な清掃活動を行っている地域もあります。また、パトロールの都度、不審車両が駐車していた等気がついた点を記録し、防犯活動に役立っている地域もあります。

【市や一部の区が関連団体や皆様と実施している取組】

□ 道路・公園等の公共空間

1 自転車盗等対策の推進

犯罪発生件数第1位である自転車盗対策として、犯罪多発地域などに重点を置いたパトロールや盗難防止キャンペーン、及び放置自転車対策を行っています。

2 市立保育所の防犯対策

市立保育所への侵入警戒、非常通報及び火災警報を機械警備で行うことにより、防犯及び火災対策を強化しています。

3 防犯に配慮した公園の維持管理

公園の植栽のせん定、照明の維持管理を通じて、見通しの良い環境を作っています。

4 照明設備の拡充

身近な生活道路や公園における安全を確保するために、地域の実情に合わせて、防犯灯などの設置を推進しています。

5 放火火災の防止

放火火災が多く発生した地域や連続放火が発生している地域に設置した「放火防止カメラ」により、放火火災を防止しています。

6 学校の安全管理の推進

「学校の防犯マニュアル」に基づき、各学校が独自の防犯マニュアルを作成して、安全管理を推進しています。また、防犯設備については、引き続き、施設管理上必要な整備を行っています。

7 街の美化活動の推進

地域の不法投棄対策、清掃活動や公園愛護会に対する支援を行っています。また、夜間パトロールの実施、不法投棄物の適正処理により、まちの美化を推進しています。

8 落書き行為防止の推進

放置しておく地域的美観を損なうだけでなく、他の犯罪も誘発する恐れのある落書きを消去するために必要な資機材の一部を、市民団体向けに提供しています。

9 開発事業における防犯対策の推進

防犯性を高める設備の設置等について開発事業者との協議を進め、防犯に資するまちづくりへの誘導を図っています。

10 地域防犯カメラの設置支援 《再掲》

犯罪の起こりにくい安全なまちづくりに向けた地域の自主的な防犯活動を支援するため、自治会町内会・商店会が道路等の公共空間を撮影する地域防犯カメラを設置する際に、費用の一部を補助しています。

□ 住まい

1 防犯に関するサポートの推進 《再掲》

防犯に関するアドバイスや研修の実施、パトロール用物品の提供を行っています。女性が抱える、DVや暴力等様々な問題にご相談に応じる他、関係機関と連携を図り、きめ細やかで切れ目のない支援を実施しています。また、住まいの防犯対策等住宅に関する相談を行っています。

2 一門一灯運動の推進

自主活動の一環として、各家庭の門灯・玄関灯の点灯を行う一門一灯運動を推進しています。

□ 繁華街・商店街

1 商店街の防犯対策の支援

防犯カメラや街路灯など商店街が設置する防犯設備や自主防犯活動などに対する支援を行っています。

2 県や警察との連携による防犯対策の推進

県・警察の協力を得ながら、防犯キャンペーンや防犯担当者研修会を行っています。また、地域・警察・区局が連携して繁華街の防犯対策に取り組んでいます。

3 NPOとの協働による防犯対策の推進

NPO法人との協働により、深夜時間帯等の繁華街をパトロールするなど、青少年の深夜外出防止や繁華街防犯対策を推進しています。

4 繁華街における地域防犯活動の支援

繁華街で防犯活動を行っている地域団体を対象に、活動状況に合わせた支援を実施しています。



犯罪に巻き込まれないためには…？

●侵入盗

一般住宅、集合住宅（アパート、マンション等）ともに窓ガラス等を破って屋内に侵入する手口が目立ちます！ 鍵の掛け忘れで侵入されたケースも…！

ー侵入防止のポイントー

1 まず、戸締りの徹底が基本

- ・ゴミ出しなど、少しの間でも必ず戸締りをする。
- ・トイレの小窓など、盲点となる所も忘れずに戸締りをする。
- ・上階のベランダであっても、窓の鍵は必ず掛ける。
- ・外出前や就寝前、もう一度戸締りの確認をする癖をつける。



2 侵入経路ごとの具体的な諸対策

○建物の外周

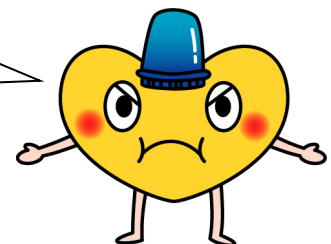
- ・フェンスをメッシュ（網状）タイプにして周囲からの見通しを確保する。
- ・植木の刈り込みをこまめに行い不審者が身を隠す場所をなくす。
- ・センサーの検知範囲に人が入ると照明が点灯する「センサーライト」を設置し、暗がり解消する。
- ・防犯カメラを設置して監視性を高める。
- ・犬を飼ったり、建物の周囲に防犯砂利（砂利の上を歩くと大きな音が出る特殊な砂利）を敷きつめたり、不審者が容易に建物に近づけないようにする。
- ・建物の周囲に侵入の足場に利用されるような物（ゴミ箱、ハシゴ等）を置かない。

○窓・サッシ

- ・ガラス破りが困難なガラス（防犯合わせガラス）を使用する。
- ・既存のガラスに防犯ガラスフィルムを貼付し防犯性能を高める。
- ・シャッターサッシを設置する。
- ・腰高窓等には面格子を設置する。
- ・クレセント錠の他に補助錠を設置する。
- ・窓用防犯ブザー（窓ガラスを破壊しようとする時、その振動で警戒音が鳴る）を設置する。

ガラスを破っての侵入以外にも
ピッキングやサムターン回しな
どの侵入手口もあります！

※ピッキングやサムターン回しに
ついては用語集をご覧ください



犯罪を遠ざける4つのポイント

1 接近の制御 (犯罪企図者*の接近を許さない)

…犯罪企図者が、対象物に接近できないように動きを妨げ、犯行の機会を奪う。
例) 侵入の足場になる物置小屋をなくす 等

2 自然監視性の確保 (人の目を確保する)

…犯罪企図者が常に人から見られる可能性のある環境をつくり、不審な行動を制御する。
例) 植栽のせん定やフェンスを網状のものにする 等

3 被害対象の強化 (壊されにくいもので守る)

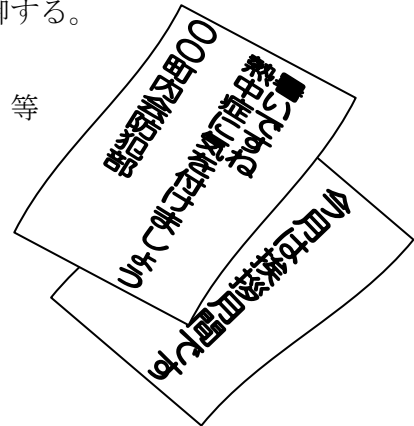
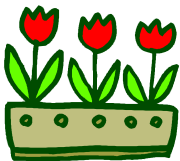
…被害の対象になる物の部材や設備などを破壊されにくいものにする。
例) ドアや窓、錠などを破壊されにくいものにする 等

4 領域性の確保・強化 (まち全体でなわばりを主張する)

…まち全体での防犯意識やコミュニティの力の強さが感じられる環境や、魅力的で利用が活発な環境をつくり、不審なものの侵入や滞留を制御する。

例) マンションの敷地の周囲を花で飾る

町内会全体でポスターを展示し適宜差し替える 等



犯罪企図者は、ほとんどの場合、下見をしていることが分かってきています。

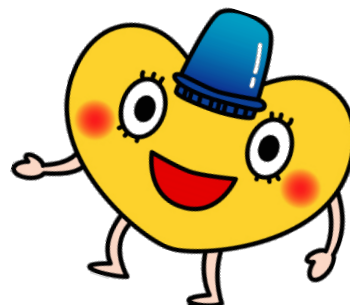
犯罪企図者が下見しているときに、地域の人たちのパトロールや清掃活動、環境美化活動が目に入ることで、その地域での犯行を躊躇(ちゅうちよ)させることが期待できます。

まちを魅力的にしたり、活発な環境にすることで人の目を増やすことも大切です。

空き巣の下見には車が使われることが多いので、不審な路上駐車には注意が必要です。

*犯罪企図者：犯罪を犯そうと企てている人

地域の人たちがまちに出ることで、犯罪企図者は寄りつきにくくなります



○ ストーカー

…特定の者に対する恋愛感情その他の好意の感情又はそれが満たされなかったことへの^{えんこん}怨恨の感情から、特定の者又はその家族等に対して行われる、つきまとい等の行為のことで...

防衛策としては…

- ・警察への早めの相談
- ・電話会社への相談
- ・防犯ブザーの携帯
- ・携帯電話に 110 番の短縮登録
- ・単独行動の自粛
- ・個人情報の管理を慎重に！
- ・被害状況を記録し、保存！

等



○ DV～ドメスティック・バイオレンス(家庭内暴力)～

…「ドメスティック・バイオレンス」とは、英語の「domestic violence」をカタカナで表記したもので、一般的には「配偶者や恋人など親密な関係にある、又はあつた者から振るわれる暴力」という意味で使用されています。

一口に暴力といっても様々な形態が存在します。殴ったり蹴ったりするなど直接何らかの力を行使する身体的なことだけでなく、心無い言動により相手の心を傷つけることや、嫌がっているのに性的行為を強要することも含まれます。

配偶者等からの暴力は、重大な人権侵害です。被害者・加害者の性別や間柄を問わず、いかなる理由があろうとも、決して許されるものではありません。



○ サイバー犯罪

…コンピュータ技術や電気通信技術を悪用した犯罪のことで...

(パソコンや携帯電話、スマートフォン等を利用した犯罪)

【防ぐポイント】

- 1 利用しているコンピュータなどの機械やソフトには、常に最新のセキュリティを適用しましょう。
- 2 パスワードと ID は他人に見られないようにしっかり管理しましょう。
- 3 パスワードの変更や、アクセスログ (通信記録) のチェックを定期的に行いましょう。

○ 振り込め詐欺

息子や孫、公的機関の職員などを^{かま}騙り、金銭を要求してくる詐欺です。近年、犯人の手口は非常に巧妙になっており、複数の犯人で、会社の上司や同僚、駅員や金融会社の職員などの役割を分担し、巧みに焦らせたり動揺させたりして金銭をだまし取ろうとします。口座に振り込ませる他、直接手渡して受け取りに来ることもあります。

【防ぐポイント】

- 1 手口をニュースなどで知っておきましょう。
- 2 普段から家族とのコミュニケーションを十分にとっておきましょう。
- 3 電話にはすぐに出ず、まず留守番電話に應對させましょう。

※犯人は声を録音されることを嫌がります。

1 横浜市の犯罪情勢

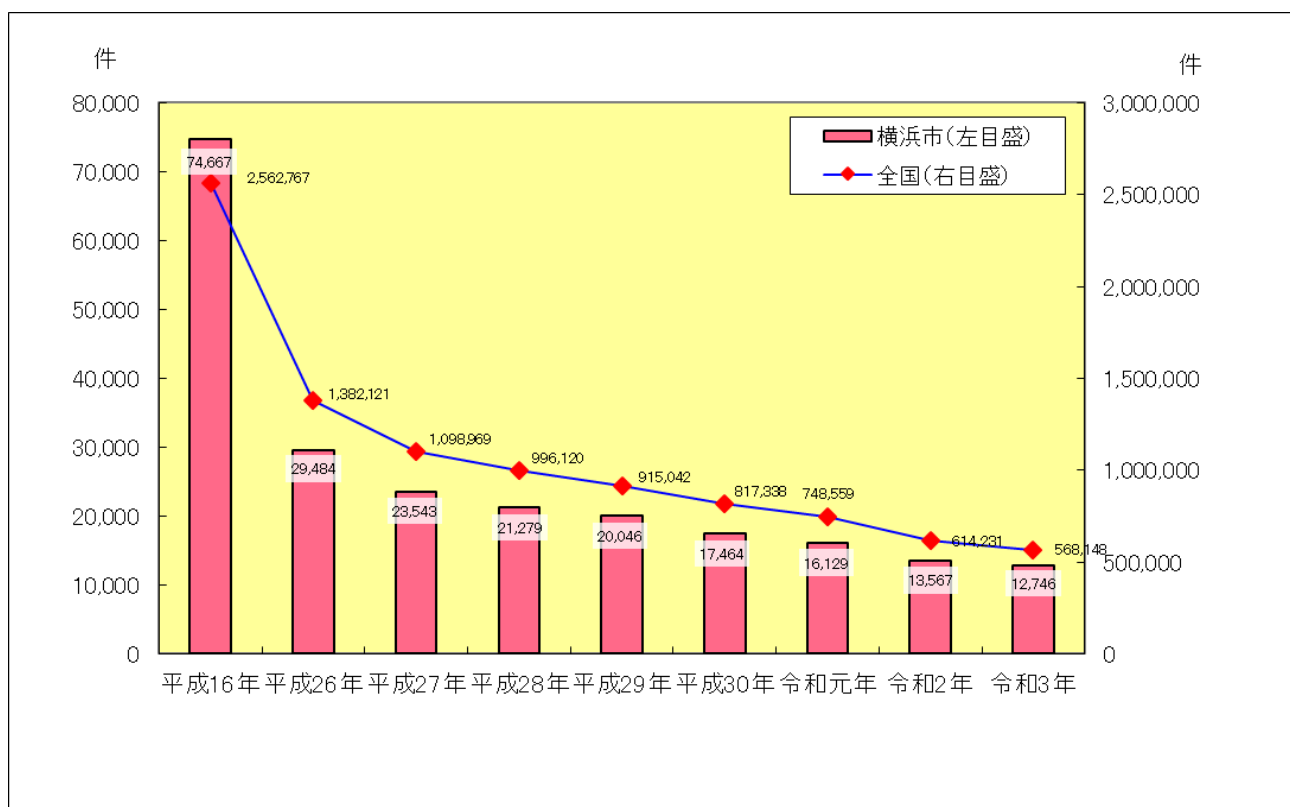
1 横浜市における犯罪発生状況

(令和3年12月末日時点)

(1) 刑法犯の認知件数の推移

- 横浜市における令和3年中の刑法犯の認知件数は、12,746件(34件/日)であった。
- 過去最高件数であった平成16年の認知件数に比べると、17.1%と大きく減少している。

図1 横浜市の刑法犯認知件数の推移



※横浜市民政局地域防犯支援課調べ

(2) 包括罪種別認知件数

- 横浜市における令和3年中の刑法犯の包括罪種別認知件数を見ると、窃盗犯が全体の71%を占めている。
- 窃盗犯の認知件数は、平成26年以降減少傾向にある。

図2 横浜市の刑法犯包括罪種別認知件数とその割合（令和3年）

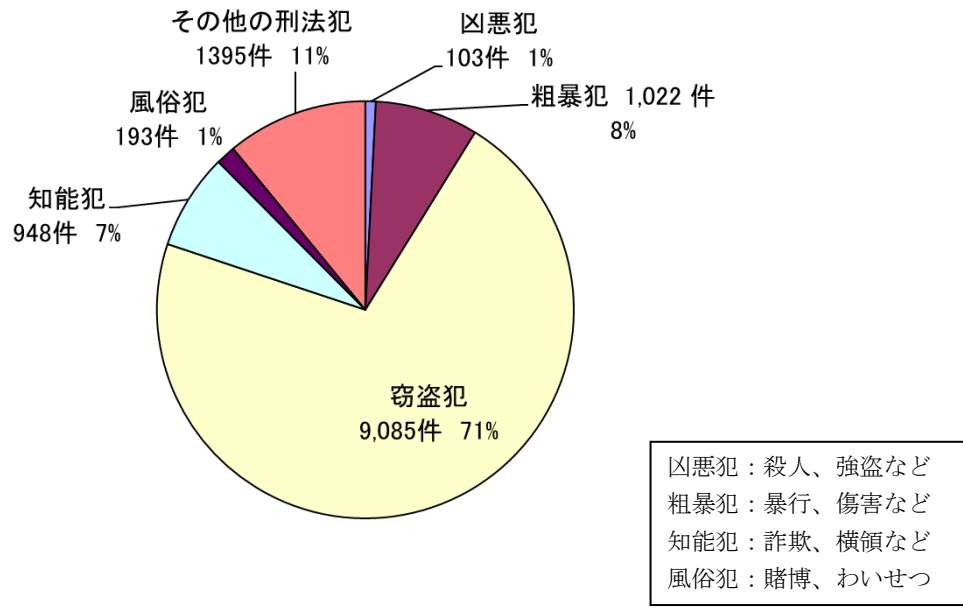
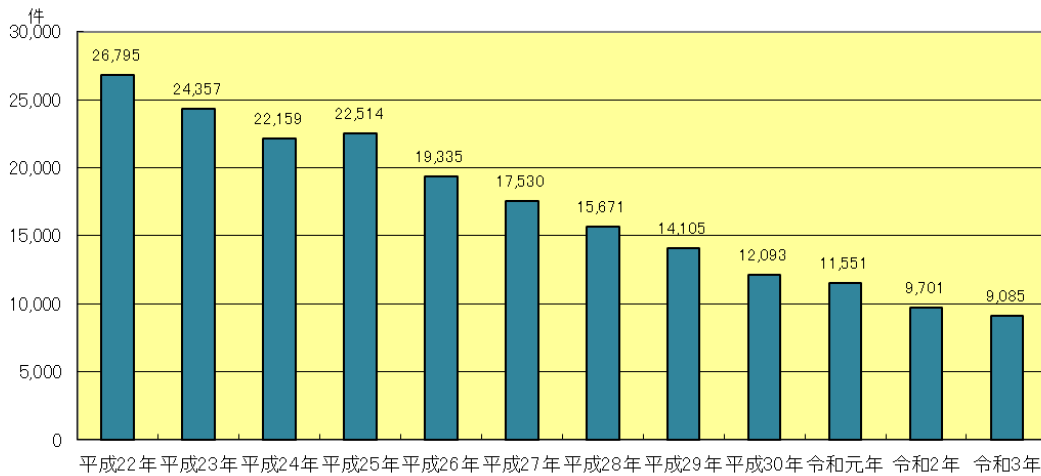


図3 横浜市の窃盗犯認知件数の推移

刑法犯^{*1}及び刑法犯包括罪種^{*2}は、用語集56～57ページを参照ください。



※横浜市市民局地域防犯支援課調べ

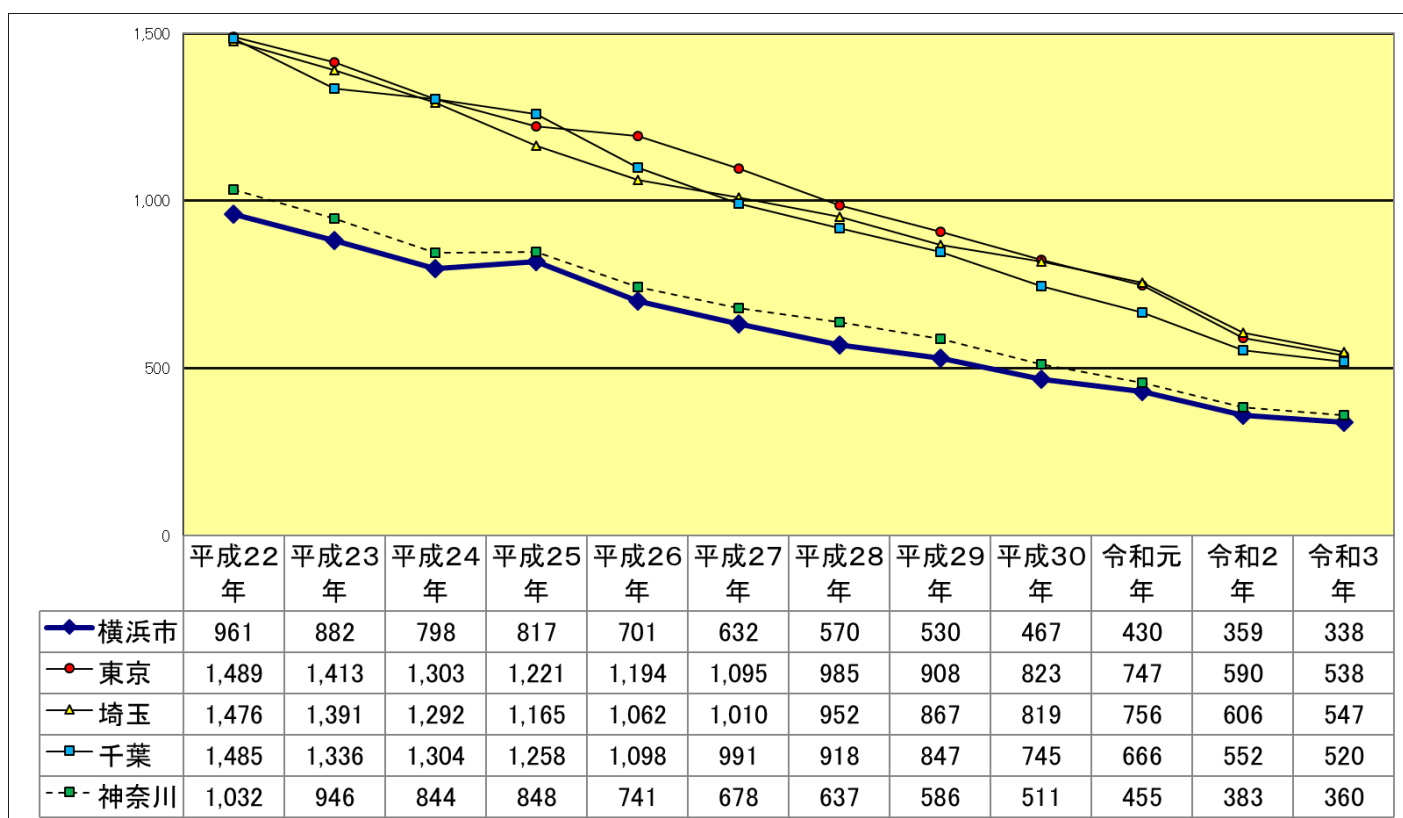
2 周辺市との比較

(1) 一都三県との比較

- 横浜市の犯罪率（人口 10 万人あたりの刑法犯認知件数。以下同じ。）は、各年度とも神奈川県 averages を下回っている。
- 一都三県と比較すると、横浜市の犯罪率はもっとも低いものとなっており、平成 25 年から 26 年にかけて大きく減少している。

図 4 横浜市及び一都三県の犯罪率の推移

(件/10 万人)



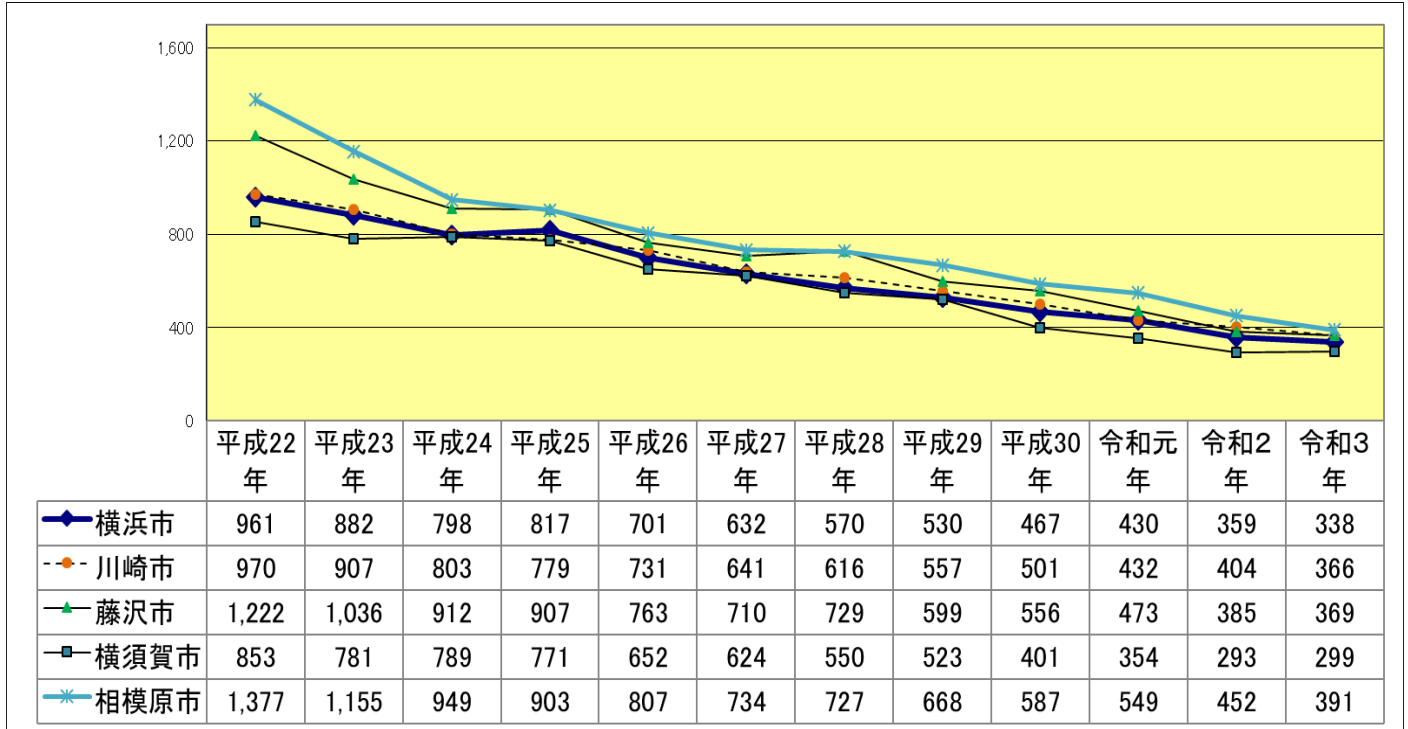
※横浜市市民局地域防犯支援課調べ

(2) 周辺市との比較

- 横浜市の犯罪率を周辺4市と比較すると、川崎市、藤沢市、相模原市より低く、横須賀市より高く推移しているが、4市ともに減少傾向にある。

図5 横浜市及び周辺4市の犯罪率の推移

(件/10万人)



※横浜市市民局地域防犯支援課調べ

3 市内の犯罪情勢

(1) 犯罪率

- 平成16年から令和3年までの犯罪率の推移を見ると、横浜市全体では、刑法犯認知件数のピークであった平成16年の2,100件が、令和3年338件（▲83.9%）、と劇的に減少している。
- 区別にみると、最も減少率が大きかった区は、緑区の▲89.2%、次いで都筑区の▲88.6%、次いで、青葉区▲87.4%である。

表1 区別の犯罪率の推移（平成16年～令和3年）

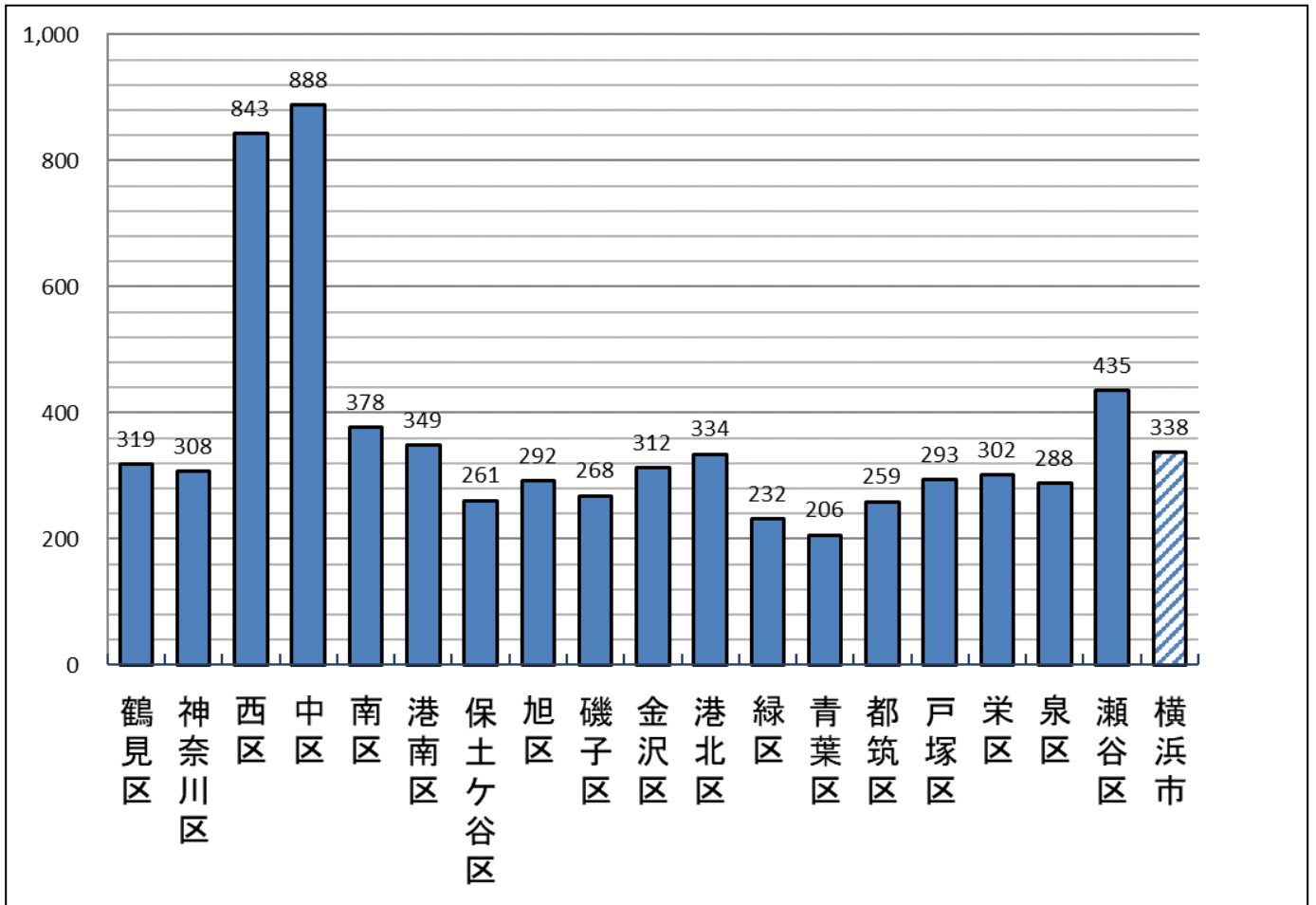
（件/10万人）

	H16	H24	H29	R3	17年間の増減率(%)
1 鶴見区	2,282	750	543	319	-86.0
2 神奈川区	2,182	719	507	308	-85.9
3 西区	5,146	2,232	1,247	843	-83.6
4 中区	4,840	1,732	1,313	888	-81.7
5 南区	2,045	824	600	378	-81.5
6 港南区	2,013	666	458	349	-82.7
7 保土ヶ谷区	1,481	768	458	261	-82.4
8 旭区	1,212	723	490	292	-75.9
9 磯子区	1,746	603	342	268	-84.6
10 金沢区	1,873	807	444	312	-83.3
11 港北区	2,305	717	615	334	-85.5
12 緑区	2,150	728	500	232	-89.2
13 青葉区	1,639	545	367	206	-87.4
14 都筑区	2,266	723	450	259	-88.6
15 戸塚区	1,923	847	436	293	-84.7
16 栄区	1,325	463	321	302	-77.2
17 泉区	1,713	643	435	288	-83.2
18 瀬谷区	2,286	931	518	435	-81.0
横浜市	2,100	798	530	338	-83.9

※横浜市市民局地域防犯支援課調べ

図6 区別の犯罪率（令和3年）

(件/10万人)



※横浜市市民局地域防犯支援課調べ



2 防犯に対する市民意識

1 令和3年度 横浜市市民意識調査からみた防犯

(1) 市政への要望〔上位5位の経年変化〕

経年変化でみると、平成20年以降、継続して第2位～第5位と上位5位に入っている。

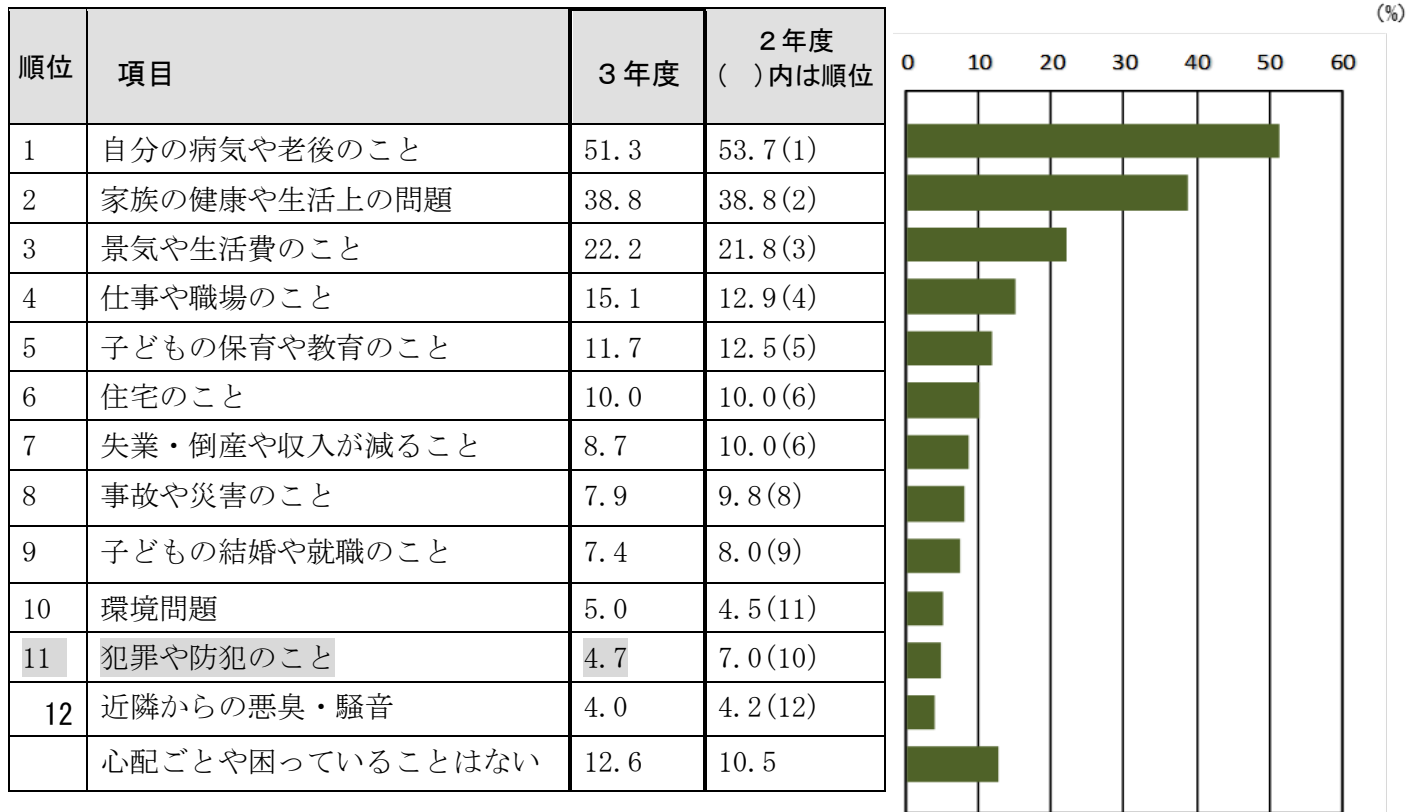
【市政への要望〔上位5位の経年変化〕（複数回答）】

	1位	2位	3位	4位	5位
20年	病院や救急医療など地域医療 41.0	地震などの災害対策 39.8	高齢者福祉 38.2	防犯対策 34.5	ごみの不法投棄対策や街の美化 29.5
21年	高齢者福祉 35.5	病院や救急医療など地域医療 35.1	防犯対策 29.8	地震などの災害対策 28.0	高齢者や障がい者が移動しやすい街づくり 25.9
22年	病院や救急医療など地域医療 34.8	高齢者福祉 31.3	高齢者や障がい者が移動しやすい街づくり 25.8	地震などの災害対策 25.4	防犯対策 / ごみの不法投棄対策や街の美化 25.2
23年	地震などの災害対策 44.9	病院や救急医療など地域医療 34.5	高齢者福祉 31.9	防犯対策 30.6	高齢者や障がい者が移動しやすい街づくり 25.2
24年	地震などの災害対策 43.9	病院や救急医療など地域医療 31.2	防犯対策 28.7	通勤・通学・買い物道路や歩道の整備 27.1	高齢者福祉 26.9
25年	地震などの災害対策 37.5	病院や救急医療など地域医療 31.4	防犯対策 28.8	高齢者福祉 27.5	通勤・通学・買い物道路や歩道の整備 25.0
26年	地震などの災害対策 33.3	病院や救急医療など地域医療 25.2	防犯対策 24.2	バス・地下鉄などの便 23.9	通勤・通学・買い物道路や歩道の整備 23.7
27年	地震などの災害対策 32.9	高齢者福祉 26.8	病院や救急医療など地域医療 26.7	通勤・通学・買い物道路や歩道の整備 26.0	防犯対策 25.9
28年	地震などの災害対策 36.6	高齢者福祉 26.1	高齢者や障がい者が移動しやすい街づくり 25.8	病院や救急医療など地域医療 26.7	防犯対策 25.1
29年	地震などの災害対策 30.7	高齢者福祉 27.6	高齢者や障がい者が移動しやすい街づくり 27.5	防犯対策 25.0	病院や救急医療など地域医療 24.5
30年	地震などの災害対策 30.6	防犯対策 26.5	高齢者福祉 26.2	病院や救急医療など地域医療 25.6	通勤・通学・買い物道路や歩道の整備 24.7
令和元年	地震などの災害対策 31.0	病院や救急医療など地域医療 28.8	防犯対策 / 高齢者福祉 28.3		高齢者や障がい者が移動しやすい街づくり 27.1
2年	地震などの災害対策 35.8	病院や救急医療など地域医療 30.6	高齢者福祉 29.9	防犯対策 28.5	地球温暖化への対策 25.7
3年	地震や台風などの災害対策 31.7	病院や救急医療など地域医療 30.4	高齢者福祉 28.8	防犯対策 27.4	地球温暖化への対策 23.9

(2) 心配事

ご自分やご家族の生活のことで心配事や困っていることとして、「犯罪や防犯のこと」と答えた人は4.7%であり、順位としては、11番目に多い回答率であった。

【心配ごと [全体] (3つまでの複数回答)】



2 市民へのアンケート調査

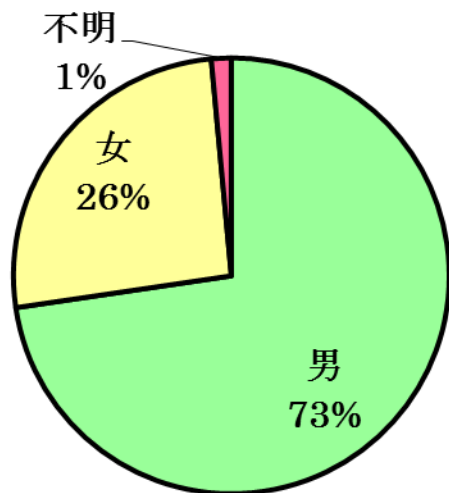
防犯に対する市民意識に関して、防犯活動に参加する市民を対象としたアンケート調査を行った。

■調査概要

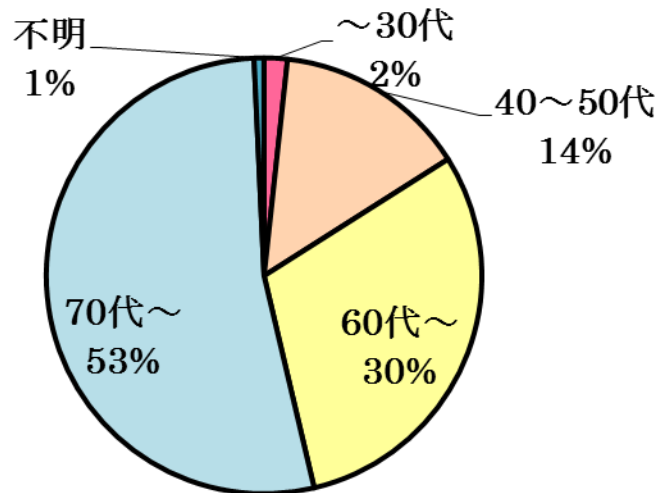
目的	「よこはま安全・安心プラン」の改訂にあたり、今現在の市民の方々が地域活動に積極的に参加していく方法や日ごろから感じている防犯に関する意識を探り、プランをより実態を踏まえたものとする。
対象	地域で防犯活動に参加する市民、計760名
内容	<ul style="list-style-type: none">● 日常生活における犯罪に対する意識● 地域の防犯活動に対する考え● 回答者属性
方法	各地域活動団体を通じてアンケート調査票を配布し、郵送回収した。
期間	締め切り：平成26年1月7日（火）
回収状況	回収件数：406票、回収率：53.4%

2.1 回答者の属性

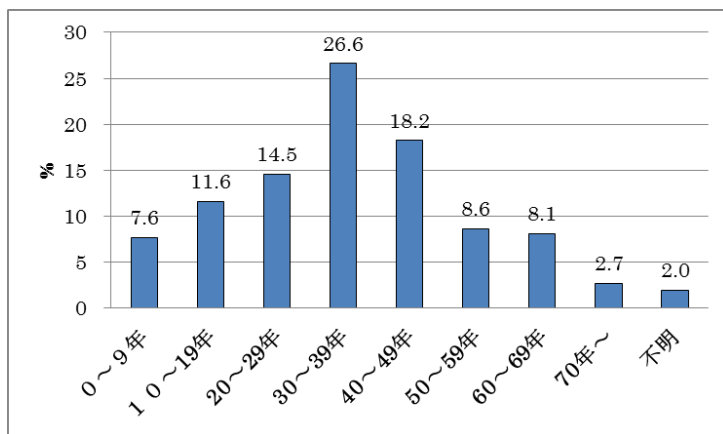
【性別】



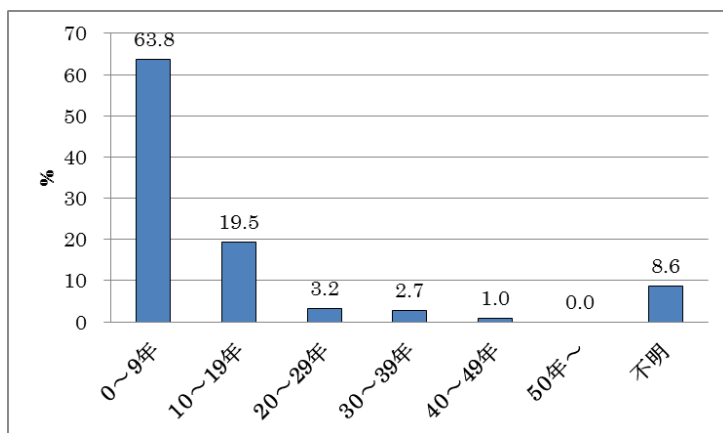
【年代】



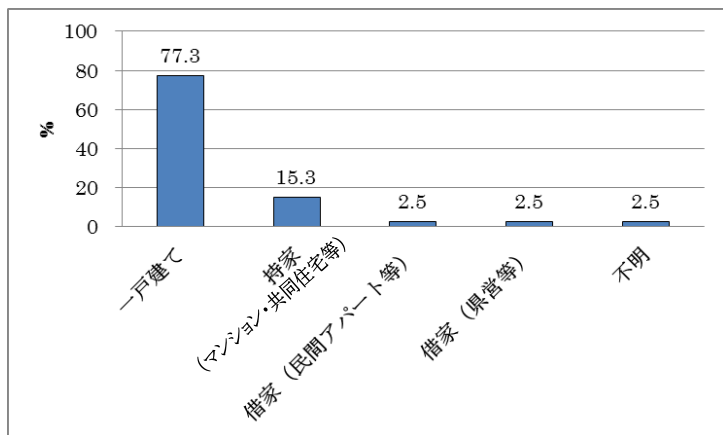
【居住期間】



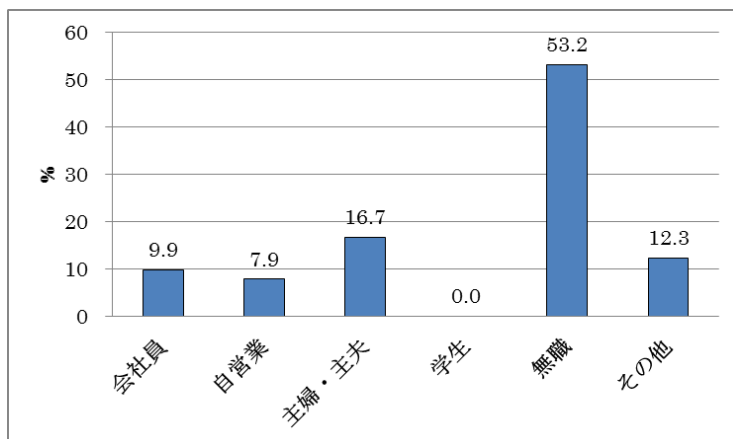
【活動期間】



【住まい】



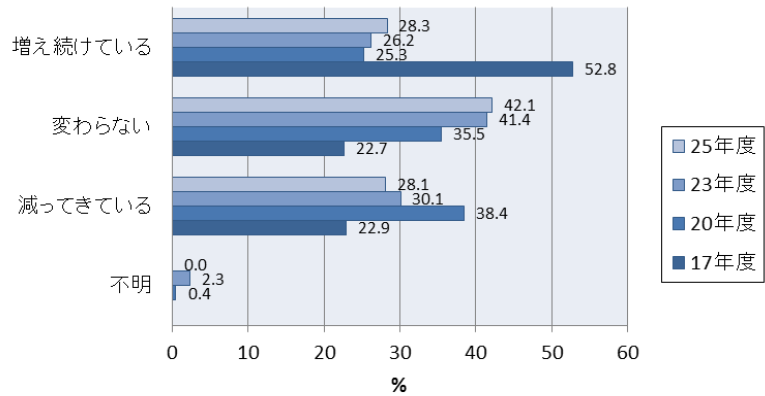
【職業】



2.2 身近な環境での犯罪の状況について

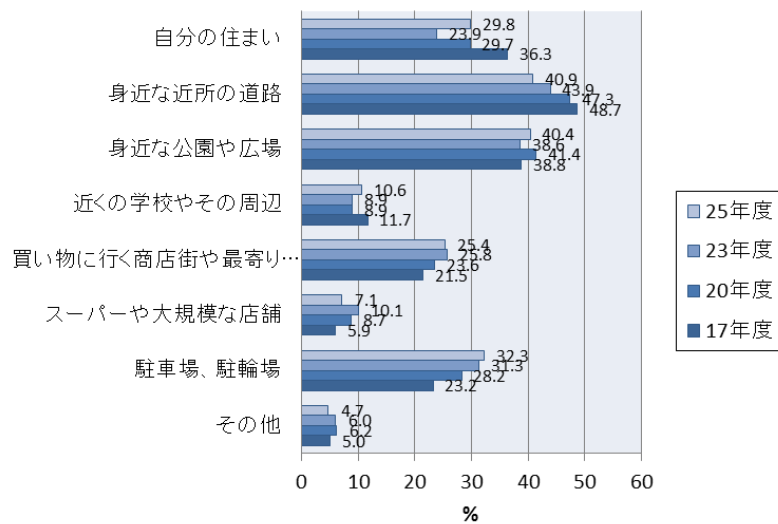
(1) 身近で発生する犯罪について、どのようにお感じですか？(一つに○を付けてください)

身近で発生する犯罪が「増え続けている」と回答した人は、平成17年調査では、52.8%であったが、20年度に25.3%と半減したのち、微増の傾向がある。また、「減ってきている」も17年度調査と比べ、20年度は15.5ポイント増加したが、以降は減少傾向にある。



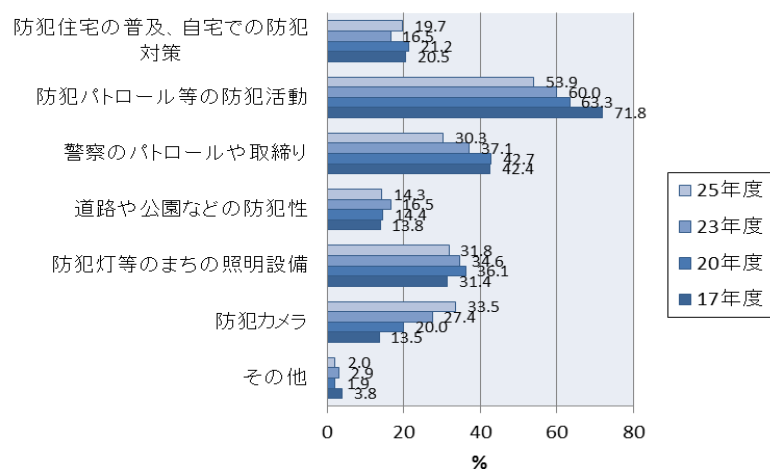
(2) 身近な空間で犯罪に巻き込まれる不安を感じる場所はどこですか？(二つに○を付けて下さい)

犯罪に巻き込まれる不安な場所の第1位の「身近な近所の道路」は、減少傾向にあるものの25年調査で40.9%の回答率であった。次いで、「身近な公園や広場」40.4%、「駐車場、駐輪場」32.3%、「自分の住まい」は過去減少傾向にあったが25年度は29.8%と前回より5.9ポイント増加している。



(3) 身近な犯罪を減らしていくために必要な手だては何だと思いますか？(二つに○を付けて下さい)

「防犯パトロール等の防犯活動」が4回の調査では、いずれも第1位を占めており、25年度では53.9%の回答率であった。次いで「防犯カメラ」33.5%、「防犯灯等のまちの照明設備」31.8%であった。



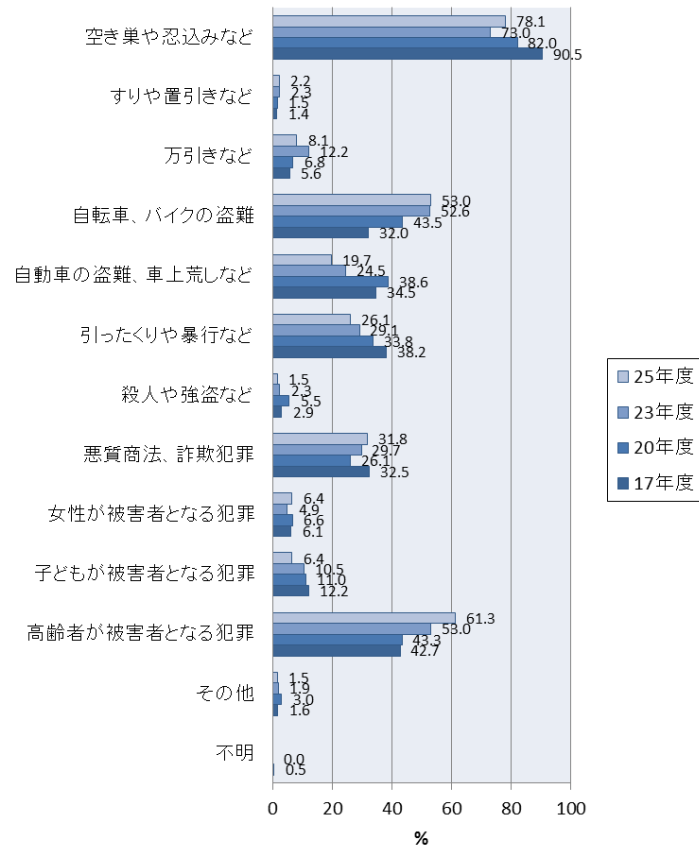
(4) 身近で発生する可能性が高いと思う犯罪は次のうちどれですか？(三つに○を付けて下さい)

「空き巣や忍び込みなど」が、過去の調査では減少傾向であったが、25年度調査では増加し、78.1%であった。

次いで、回答率が高かったのは、「高齢者が被害者となる犯罪」で、17年の42.7%から25年では61.3%と約20ポイント増加している。

3番目に回答率が高かったのは、「自転車、バイクの盗難」で、17年の32%から25年の53%へと急増している。

「引ったくりや暴行など」は、17年の38.2%から25年の26.1%へと約12ポイント減少している。



(5) ご自宅ではどのような防犯対策を行っていますか？(行っているものすべてに○を付けて下さい)

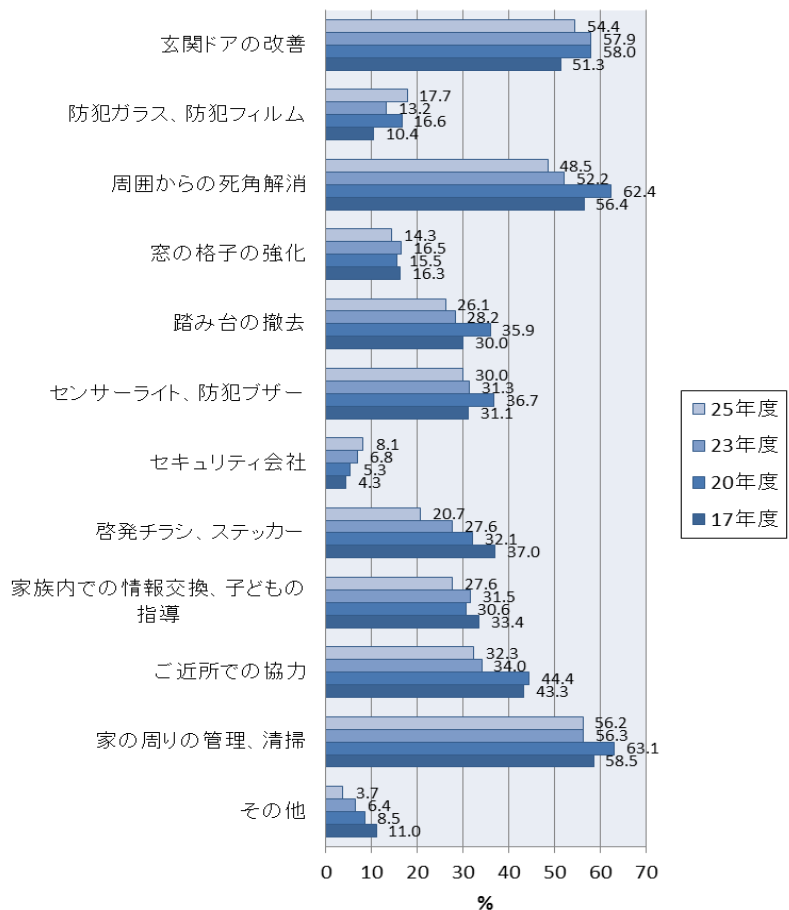
防犯対策のベスト・スリー
1位「家の周りの管理、清掃」
…56.2%

2位「玄関ドアの改善」
…54.4%

3位「周囲からの死角解消」
…48.5%

家に関する対策を挙げる人が多く、いずれも約半数の人が対策をしていた。

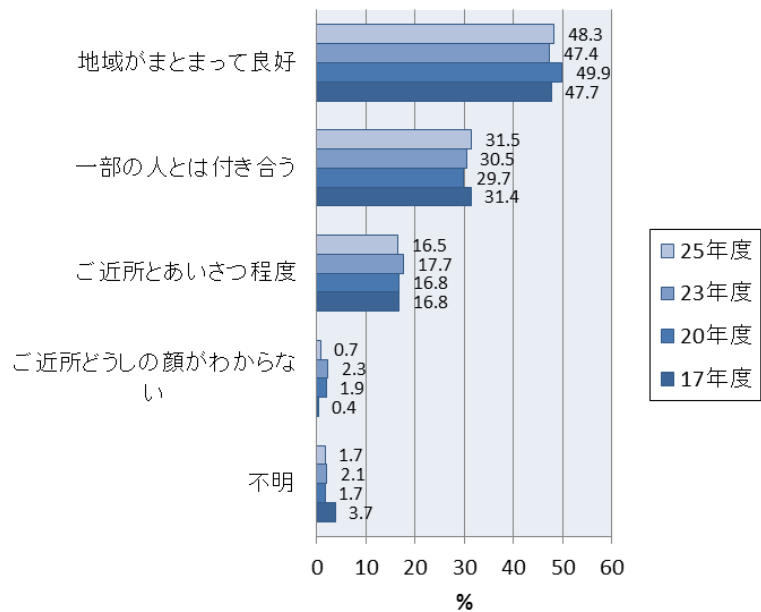
また、「ご近所での協力」32.3%、「家族内での情報交換、子どもの指導」27.6%といった、地域や家庭での協力や対策を挙げる人も3割前後あった。



2.3 地域のつながりや防犯活動について

(1) お住まいの地域のご近所付き合いや地域の連帯感についてどのようにお感じですか？
(一つに○を付けてください)

「地域がまとまって良好」という回答が、5割弱を占めている。一方、「ご近所とあいさつ程度」も16.5%あった。

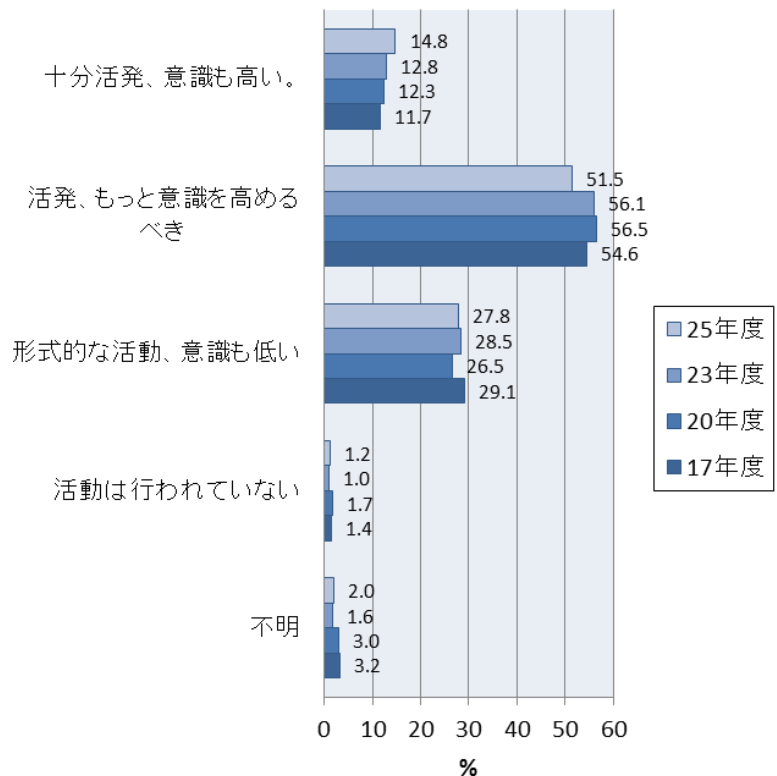


(2) お住まいの地域の防犯活動や地域の防犯に対する意識についてどのようにお感じですか？
(一つに○を付けて下さい)

「防犯活動は活発だが、もっと防犯に対する意識を高めていく必要がある」という回答が最も多く、各調査年度とも5割を超えている。

また、「十分活発、意識も高い」という回答は14.8%だが、調査のたびポイントを増加させている。

一方で、「実施されているものの形式的で、防犯に対する意識がまだ高まっていない」という回答も3割弱あった。

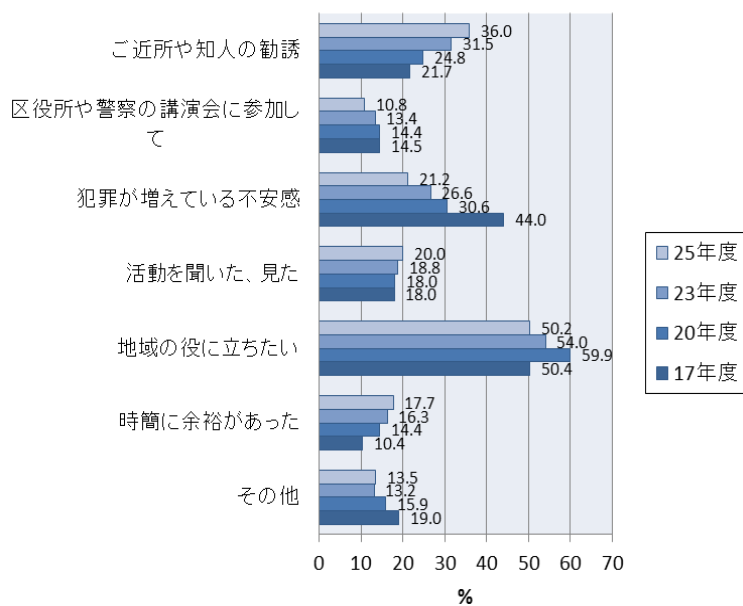


(3) 地域における防犯活動に参加しようと思った理由は何ですか？(二つに○を付けて下さい)

参加しようと思った理由の第1位は「地域の役に立ちたい」で、4回の調査のいずれも5割以上の回答率を示している。

「犯罪が増えている不安感」からと応えた人は、17年の44%から25年の21.2%へと大きく減少している。

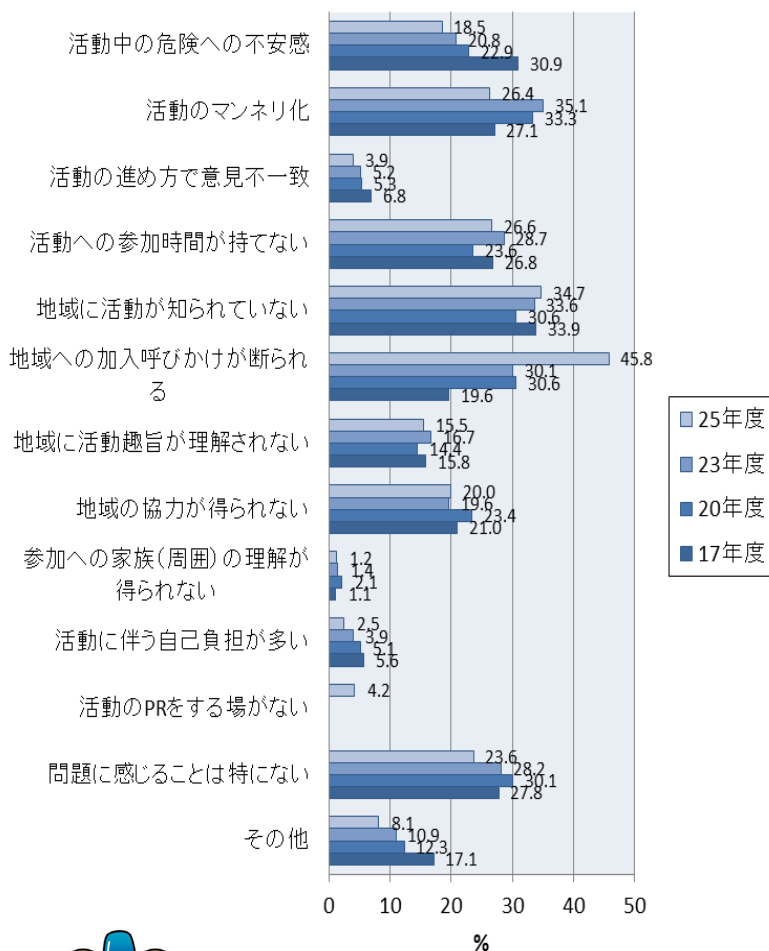
「ご近所や知人の勧誘」は、毎年増加しており、17年の21.7%から25年の36%へと15ポイントの増である。



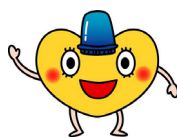
(4) 地域における防犯活動に参加して問題に感じることは何ですか？(三つに○を付けて下さい)

問題に感じることとして「地域への加入呼びかけが断られる」45.8%、「地域に活動が知られていない」34.7%、「活動への参加時間が持てない」26.6%、

「活動のマンネリ化」26.4%、との声がある一方、「問題に感じることは特にない」という回答も23.6%あった。



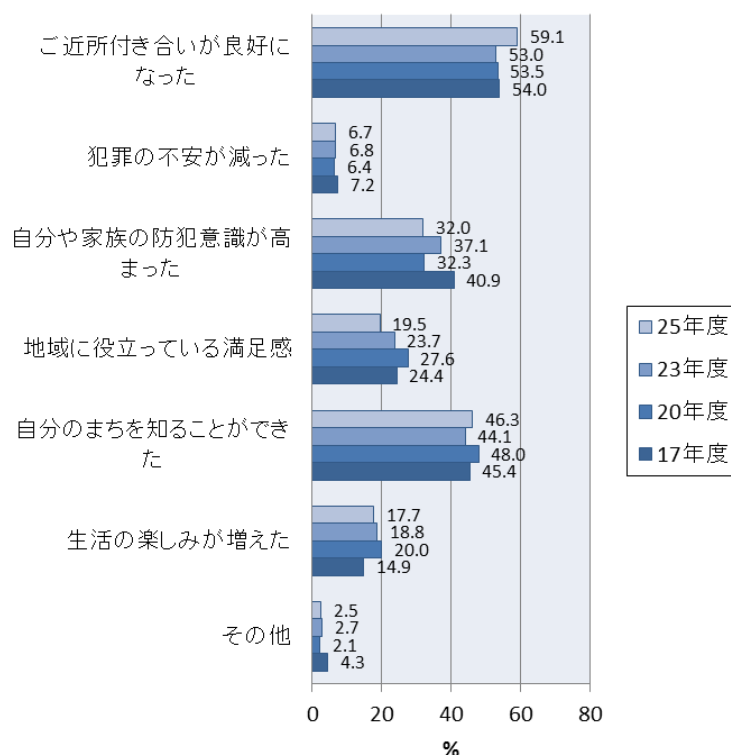
設問(4)『防犯活動での問題』では「地域への加入呼びかけが断られる」が最も多く問題であると回答されています。一方、設問(3)『地域防犯活動参加理由』では「ご近所や知人の勧誘」という回答が二番目に多く、皆さんたくさんの人に、活動を呼びかけていることが伺えます。



(5) 地域における防犯活動に参加してよかったことは何ですか？（二つに○を付けてください）

参加してよかったこととして、「ご近所付き合いが良好になった」59.1%、「自分のまちを知ることができた」46.3%、「自分や家族の防犯意識が高まった」32.0%という回答が多かった。

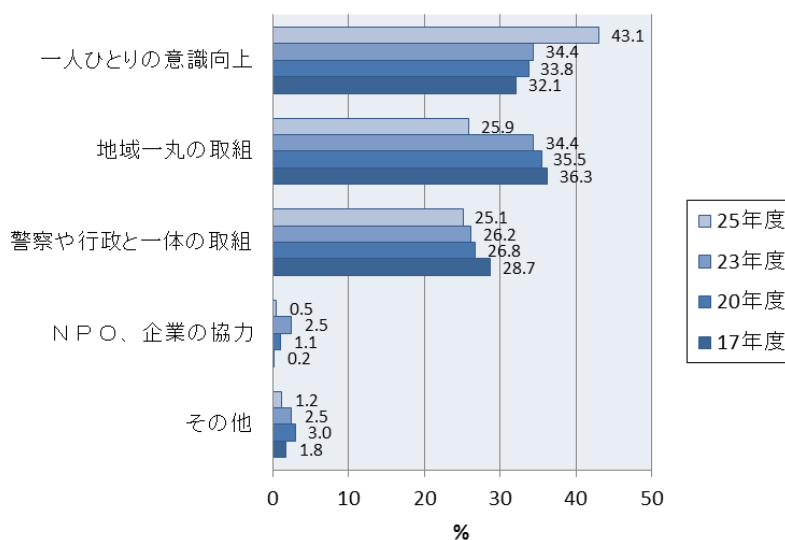
「犯罪の不安が減った」と答えた人は、各調査年とも7%前後であった。



(6) 地域の防犯力を向上させていくために必要な考え方のうち、重要と思われるものは何ですか？（一つに○を付けて下さい）

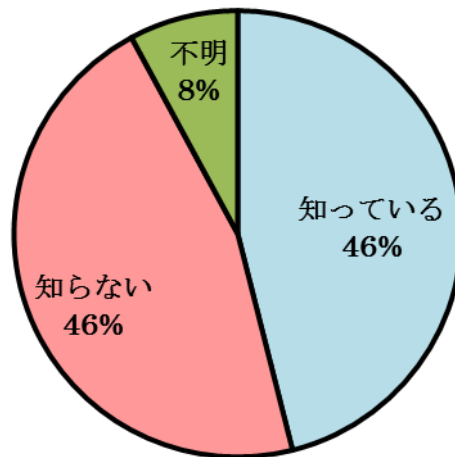
防犯力向上のために重要だと思うものは、「一人ひとりの意識向上」であり、43.1%と高くなっている。

次いで「地域一丸の取組」は25.9%。「警察や行政と一体の取組」25.1%となっている。



(7) 市内の刑法犯認知件数は、平成 16 年中のピーク時と比べ、25 年中では約半減していることをご存知ですか？

刑法犯認知件数が、ピーク時から約半減していることを「知っている」、「知らない」とともに 46%と、なっている。



(8) 平成 23 年度時点と比べ、地域の防犯活動で変化したことはどのようなことかご記入ください。

(新しい取組、意識の変化、犯罪不安の状況等)

良くなった点 (主な回答内容の要旨抜粋)

防犯に対する意識の変化について	<ul style="list-style-type: none"> ・町内の防犯意識が徐々に向上しており、若い世代や今まで防犯パトロールに参加してこなかった層からの参加者が増えてきている。 ・パトロール活動が定着してきており、地域から理解されてきた。 ・防犯パトロールへの参加者が多くなったが、これは参加意識の向上だと思う。 ・腕章をつけての散歩や防犯ステッカー等をつけたワンワンパトロールの参加者が増え、少しずつ活動が認知されるようになった。
近隣とのコミュニケーションについて	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯活動を通じて近所の人達と仲よくなった。 ・夜のパトロールで、すれ違う人たちと「こんばんは」「ご苦労様」等お互いに挨拶を交わすようになった。 ・近所で、気軽に声をかけあうようになりつつある。 ・平素から道路で行き交う人、特に小・中・高生が挨拶をするようになった。また、大人も「ありがとう」「ご苦労様」との声かけが多くなった。 ・地域の住民との会話が増えた。 ・防犯活動を通じて、地域との付き合いが多くなった。

<p>防犯に関する取組について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・パトロール回数が増加、活性化した。 ・参加者が減少してきていたが、参加を自由にしたところ参加者が増えた。 ・防犯活動へ若者や女性の参加が増えた。 ・掲示板などを使っての防犯活動 PR や路地裏の整備を行っている。 ・防犯ニュースを発行している。 ・パトロールをしながら挨拶を心掛けている。 ・防犯パトロール実施時に、大きな声を出しながら回っている。 ・防犯腕章を付ける人が多くなった。 ・消火器具、防犯灯などの点検を行いながらパトロールを実施しているので、地域の危険な場所などを確認することができる。 ・地域住民が門灯を点けて、防犯活動に協力してくれる。またセンサー付きの門灯が増えている。 ・犯罪や防犯情報の提供により、地域の人の関心が増加してきた。 ・警察のパトロールが増えた。 ・警察との合同パトロールを行っており、効果は大であると思う。 ・防犯灯が LED に切り替わり明るくなった。
<p>組織連携について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯意識が高まり、自治会、管理組合、老人会のほか、任意グループも誕生し、防犯パトロール等を分担して実施するようになった。 ・他の団体と連携することで、人材発掘やパトロール、啓発を行えるようになった。 ・ボランティア団体との連携による合同防犯パトロールを実施している。 ・ボランティア活動だったが自治会町内会に認められ、自治会の活動となったため、体制のバックアップが充実した。 ・防犯パトロール活動と自治会役員、子ども会、地域の同好会等との連携が良くなった。 ・警察から提供された犯罪発生情報等を町内会報や回覧版で周知し、注意喚起している。 ・自治会での集まりに警察を招き講習会を実施している。 ・地域の防犯パトロールに警察にも参加してもらった。



このほか、
 ひったくり、空き巣などの
 身近な犯罪が減った！
 という成果を喜ぶ声もありました。
 目に見える結果があると
 モチベーション維持にもなりますね！

□悪くなった点 (主な回答内容の要旨抜粋)

防犯意識について	<ul style="list-style-type: none"> ・活動への新規参加者が少なくなった。 ・防犯活動について、あまり知られていない。 ・犯罪が減少したため危機感の低下と活動のマンネリ化。 ・犯罪が少なくなった結果、防犯パトロールへの意識が薄れ、参加者が少なくなった。 ・意識の高い人と全く興味のない人の差がすごく広がった。 ・防犯灯に被る家の庭木などの整備に協力してくれない。
近隣とのコミュニケーションについて	<ul style="list-style-type: none"> ・隣近所との挨拶が減り、どんな人が住んでいるのかわからない。 ・地域懇談会等の話し合いへの参加者が少なくなってきた。 ・個人情報保護のために近隣との関係が希薄になってしまった。 ・新住民との交流がうまくいかない。 ・高齢化が進んだが、次世代への引継がうまくいかない。
防犯に関する取組について	<ul style="list-style-type: none"> ・メンバーの高齢化、引越し、入院等で参加者が少なくなってきた。 ・高齢化が進み、意識は向上しても体力がついていかない。 ・夜間パトロールがなくなってしまった。 ・あいさつ運動がなくなってしまった。 ・活動内容がマンネリ化してきている。 ・活動の裾野が広がらない。 ・一人暮らしの高齢者が増える中、犯罪からどの様に守っていくのが難しく、対策が立てられない。 ・高齢者を対象とした詐欺等の犯罪が増えている。 ・もう一步踏み込んだ活動への移行が難しい状況にある。 ・活動資金が不足している。
組織連携について	<ul style="list-style-type: none"> ・警官によるパトロールが減った。 ・行政や警察にもっと地域のパトロールに参加してもらいたい。 ・行政が行っているパトロールと地域の活動とが連携していない。 ・行政に資金や物品の支援を柔軟に対応してほしい。
環境変化について	<ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らしの高齢者や、空き家が増えてきている。またそのため整備されていない家が増えた。 ・犯罪が減ったために、防犯意識は低下している。 ・防犯パトロールの装備等、物品が古くなっている。

(9) 自由意見欄の内容

地域において防犯に関する活動を行うことについて、日頃からお考えになっていることなどを自由にお書きください。

一人ひとりの意識の向上について	<ul style="list-style-type: none">・防犯活動は、一部の人たちの活動となっている。一人ひとりの意識を高めていく必要がある。・近所で起きた犯罪の実態や傾向を住民に素早く周知することが大切。・防犯パトロールに参加するようになってから防犯意識が向上し、近所の人と情報交換をするようになった。
地域のコミュニティーの育成について	<ul style="list-style-type: none">・お互いに挨拶を交わすことが必要であり、それが自然と防犯活動につながっていく。・ご近所付き合いがあれば、声かけもでき明るい町となる。そこに目配り、気配りも生まれ犯罪の予防に繋がり、災害時にも有効だと思う。・若い世代の参加が少ない。世代を超えた交流が最も必要である。
効果的な防犯に関する取組について	<ul style="list-style-type: none">・防犯活動が活発な街だと PR すれば犯罪者を遠ざけることができる。・ワンワンパトロール等の日常の外出時のパトロールは、時刻も場所もまちまちとなるので大切なパトロールである。・夜回りや挨拶等犯罪の抑止力となるものは、地域が一体となって活動の輪を広げる必要がある。・高齢化が進むのでわかりやすく犯罪を説明する必要がある。・青パトを活用したパトロールは効果的である。・美化清掃は防犯に欠かせない。・地域での防犯もちろんだが、機械警備などの個人的な防犯も重要。・防犯カメラの設置に理解が欲しい。
組織連携の強化について	<ul style="list-style-type: none">・警察や行政と自治会町内会との連携をもっと強めたほうがよい。・自治会町内会や連合の中でも横の連携を強め、情報を共有した方がよい。・学校、行政、警察、地域はもっと連携して子どもたちを見守るべき。・お祭り等のイベントでも活動への参加を呼びかけたい。・行政や警察がどんどん地域防犯活動に参加し、課題点等を見つけてほしい。
地域の防犯に係る要望について	<ul style="list-style-type: none">・防犯拠点のような場所はもっとあった方がいい。・身近な自治会で起こった犯罪情報の提供が必要である。・高齢者への詐欺が急増しているので、高齢者同士も絆を深め防犯に努めてもらいたい。・振り込め詐欺防止のための機械の導入、留守番電話の利用の推奨を自治会で進めていきたい。
警察・行政への要望について	<ul style="list-style-type: none">・防犯カメラの設置に助成が欲しい。・活動を地域住民に任せすぎている。・高齢者の防犯対策を行政としても行うべき。・警官のパトロールをもっと増やしてほしい。・地域のパトロール隊ともっと交流を持ち情報共有してほしい。

3 横浜市における防犯に関する取組の状況

市内の各地域で防犯活動を行っている団体に対しアンケート調査を実施し、地域における防犯に関する取組や活動内容、課題点等を把握し整理すると次のとおりである。

1 地域を中心とした自主的防犯活動の取組状況について

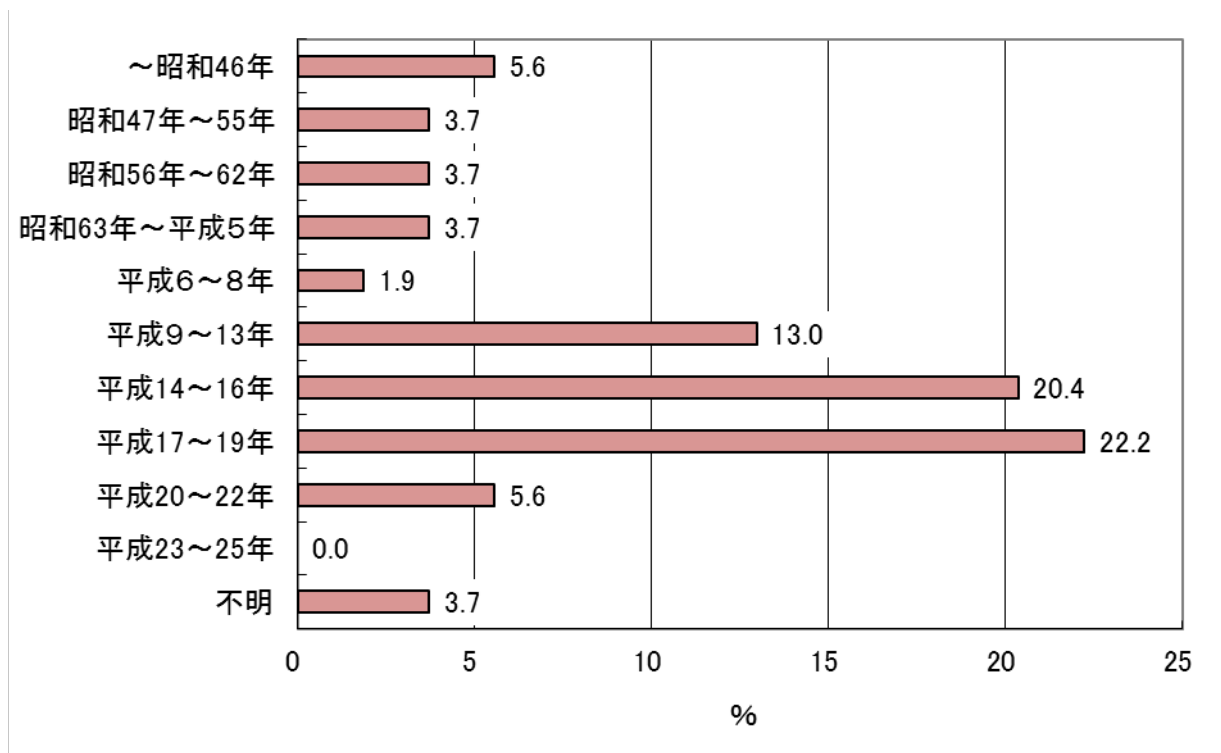
■調査概要

目的	「よこはま安全・安心プラン」の改訂にあたり、今現在の市民の方々が地域活動に積極的に参加していく方法や日頃から感じている防犯に関する意識を探り、プランをより実態を踏まえたものとする。
対象	各区概ね4～5団体、計76団体(前回調査と同一団体)
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・活動団体のプロフィールについて ・活動の経緯・内容・効果について ・今後の活動展開について ・活動の課題・要望について
方法	前回調査時に各区が抽出した防犯関係団体に対して、アンケート調査を配付し、郵送回収した。
期間	締め切り：平成26年1月7日(火)
回収状況	回収状況：54票、回収率：71.1%

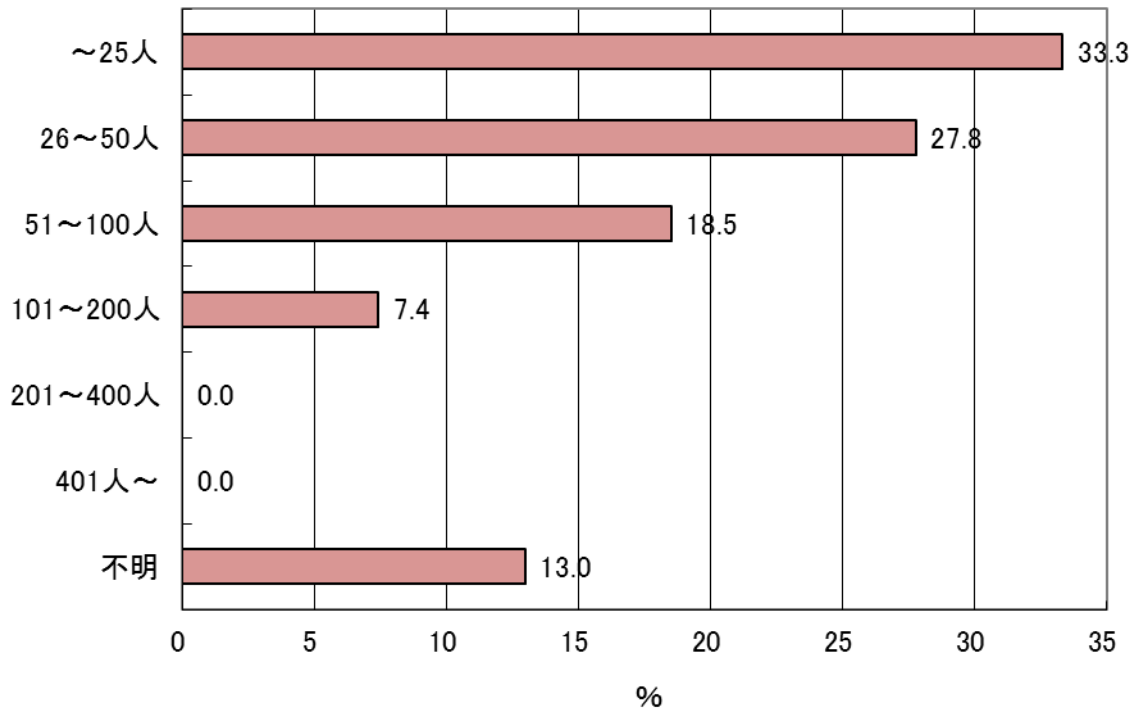
(1) 活動団体の概要

回答が得られた活動団体の概要は、次のとおりです。

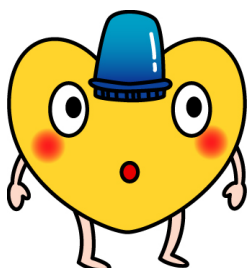
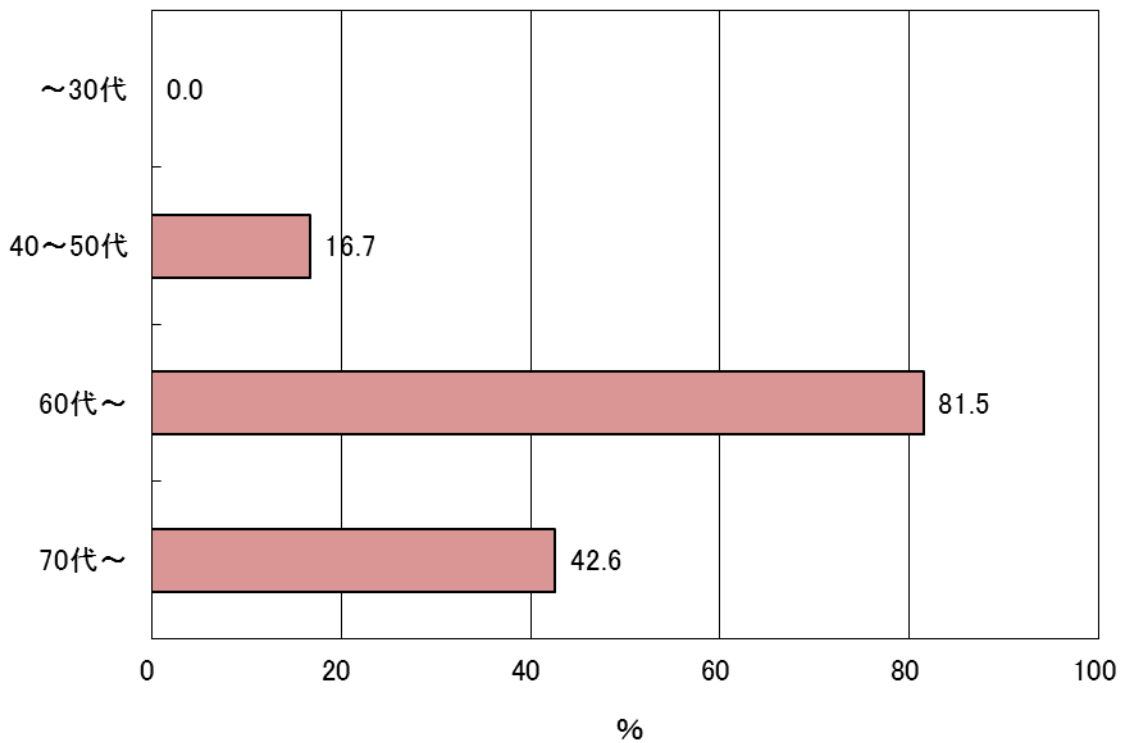
【結成次期】



【活動に参加する主なメンバーの人数】



【活動に参加する主なメンバーの世代】



60代、70代は重複して○をつけている団体が20団体ありました。

1 防犯に関する情報提供、人材育成に係る事項		
項目	取組状況の概要	取組主体等
犯罪発生状況・防犯情報の提供	<ul style="list-style-type: none"> ○ 防犯ニュース等の配付や回覧、町内の掲示板や防犯拠点等への貼り出しをすることで、犯罪情報を提供している自治会もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自治会町内会が中心となった活動が多い。 ○ 自治会等と警察、行政が連携して協議会等を立ち上げ、情報提供を行っている。
地域に対する教育、人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の住民に対して、防犯講座、防犯教室を開催している。(区や警察等と連携して行うものが多い。) ○ 挨拶運動に小学生・中学生を巻き込んで実施している団体もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自治会町内会の活動が多い。 ○ 自治会、PTA、青少年団体が連携し、合同で防犯講習会を実施する地区もある。
地域への啓発活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 駅前やスーパーの前などで啓発チラシ・物品を配布したり、ポスターや看板、のぼり旗等を掲示したりしている。 ○ コミュニケーションづくりを兼ねた挨拶運動等、直接住民に働きかける活動も見られる。 ○ 夏祭り等のイベントに出店等して活動のPRや、防犯啓発をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自治会町内会の活動が多い。
2 防犯に関する活動に係る事項		
項目	取組状況の概要	取組主体等
地域の自主的な防犯パトロール	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多くの地域で、自主防犯パトロールを実施している。 ○ 徒歩によるパトロールが多いが、青色回転灯装着車による防犯パトロールを実施している団体もある。 ○ パトロールにあわせ、防火器具や防犯灯の確認、高齢者世帯への巡回を行う地域も見られる。 ○ ワンワンパトロールやウォーキングなど健康づくりを兼ねたパトロールを実施している地域もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自治会町内会によるものが多い。 ○ 商店会や学校関係者、ボランティアによる取組も見られる。 ○ 自治会、学校、PTAに企業などを加えてパトロールを実施している地域もある。
身近な公共空間の自主管理活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 防犯灯の管理を行っている。 ○ 町内の花壇など、美化清掃活動を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自治会町内会によるものが多い。
防犯まちづくりにかかる拠点の設置	<ul style="list-style-type: none"> ○ パトロール等の防犯活動の拠点や、情報の収集・提供の場として設置している。 ○ 地域の交流の場、総合案内所の機能も持たせている場合や、自治会町内会館等、もともと交流の場であった場所を拠点に充てている場合も見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自治会町内会の活動が多いが、商店会で活動しているものも見られる。 ○ 既存の自治会館等を活用するもの、空き交番・空き店舗を活用して、新たに設置するもの等がある。

3 学校（園）・通学路における子どもの安全確保に係る事項		
項目	取組状況の概要	取組主体等
通学する子どもたちを守る活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 登下校時や、夜間などに、子どもの見守り活動やパトロール活動を実施している。 ○ 学校内や通学路での安全を見守る「よこはま学援隊」の活動が定着している。 ○ 地域の防犯パトロールと学援隊の連携を進め、効果の高い防犯活動を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自治会町内会、ボランティア、学校・PTAなど、様々な主体が行っている。 ○ 「よこはま学援隊」は、学校と保護者、地域住民との連携・協働により結成されている。
子どもへの安全教育	<ul style="list-style-type: none"> ○ 防犯やあいさつ運動のポスター、標語などの作成や展示会などを行い、自治会町内会に貼りだす活動をしている地域もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 展示会など子どもが参加する取組は、小学校と地域との協働で行う場合が多い。
4 防犯に配慮した住宅・公共空間等の整備・管理に係る事項		
項目	取組状況の概要	取組主体等
住宅の防犯性能向上のための自主的な活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自治会や商店街で防犯灯や防犯カメラを設置している地域や、空き家店舗をなくすための地域活性化運動を実施している地域がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自治会町内会、商店街等が主体となっている。
明るいまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自治会が、門灯・玄関灯の点灯促進を行っている地域がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自治会町内会等が主体となっている。

2 防犯活動の取組に係る課題・今後の展望等について

(1) 各団体のこれまでの防犯活動と今後について

- ① 現在取り組んでいらっしゃる防犯に関する活動の内容について、いつ、どこで、どのように取り組んでいらっしゃるか、ご記入ください。

■主な活動内容

ほとんどの団体が防犯パトロールを実施しており、登下校時、子どもの見守り活動を行っている事例も多い。

○パトロールの傾向

- ・パトロールの頻度は、週1～3回ペース、月1回ペース、盆暮れの時期のみで実施している等の団体が多い。
- ・小学生の登下校を見守るパトロール、運動等の場合は、通学路を中心に登校期間ほぼ毎日という団体も多い。
- ・時間帯は、登下校の時間帯や夕方パトロールが多く、夜間（20～21時）にも実施している団体もある。
- ・揃いのジャンパーや防犯ベスト、腕章を着用し、ハンドマイクで呼びかけながらパトロールを行っている団体もある。
- ・多くの団体は、積極的に声かけをしながらパトロールを行っている。
- ・普段から散歩などをするとき、防犯の腕章をつける活動を実施している団体もある。

○特徴的なパトロール

- ・青色回転灯装着車によるパトロールを実施している団体もある。
- ・パトロールの際に、ゴミ拾いなどの清掃作業、消火器具・防犯灯のチェックや、高齢者独居住宅の見守りなども一緒に行っている団体もある。
- ・犬の散歩を兼ねたワンワンパトロールを実施している団体もある。

◆パトロール以外の活動

- ・各家庭に防犯シールを配付し掲示してもらったり、防犯ポスターを自治会や商店街の掲示板へ掲示したりなど、防犯啓発に努めている団体もある。
- ・駅前などでチラシなどを配付して防犯啓発を行っている団体もある。
- ・警察署から適宜、犯罪発生情報の提供を受け、会員へ周知し、防犯意識向上を図っている団体もある。
- ・お祭り等地域での催し物の際に出店をして活動のPRや資金調達をする団体もある。

②現在取り組んでいらっしゃる防犯に関する活動は、どのようなきっかけで始まり、活動内容がどのように変わってきたか、ご記入ください。

■主な活動のきっかけ

自治会町内会など身近な場所で犯罪が多発したこと、また、全国的に犯罪が多発・増加しているという状況をきっかけとして、防犯活動に取り組み始めた団体が多い。

- ・町内会で侵入盗、ひったくりが多発したため、住民の安全・安心な生活が守られるように、パトロールを始めた。
- ・子どもたちが犯罪に巻き込まれる事件が多発した時期、学校だけではなく、地域でも子どもたちを見守ろうという機運のもと発足した。
- ・青少年の公園や空き地でのたむろ、小学校の窓ガラスを割るなどといったことが増えたため活動を実施した。
- ・車やバイクの危険な走行、ひったくりが多発したため、ボランティアと自治会町内会で共同で開始した。
- ・有志で始めたが町内で分担する形が定着し、拍子木やハンドマイクでパトロール中であることをアピールしている。
- ・警察署の働きかけで防犯パトロールを始めた。当初、町内会役員が中心で活動していたが、一般会員や老人会、PTAの参加も得られるようになった。
- ・町内会長的一声で活動が開始したが当初はなかなか人が集められず、お茶代などを自治会町内会の予算をあて、防犯部を中心として実施。現在活動は安定している。

■特徴的なきっかけ

- ・2002年のワールドカップがきっかけで開始した。
- ・町内のソフトボールチームやイベントを開催するチームにより自主的に立ち上げ、自治会の役員等も参加することとなった。
- ・雑談の中で、空き巣が多いことを知り、健康ウォーキングを兼ねてパトロールを開始した。
- ・防犯パトロールが犯罪抑止になると聞き、近隣の自治会町内会が実施していたので開始した。
- ・池田小学校の事件をうけ、PTAと連合自治会町内会が合同で見守りを開始した。
- ・自主パトロールが解散したため自治会町内会でパトロールを開始した。
- ・区内で防犯重点地区に指定されたことを受け、連合自治会町内会を巻き込み、多くの他団体と連絡協議できる体制のもと活動がスタートした。
- ・平成14年ごろの犯罪多発をうけて、自分たちの町は自分たちで守る、と町内約20社で防犯カメラの設置を実施。現在は空き家や空きビルを減少させ、きれいで活発な街づくり活動へと変化している。

③現在取り組んでいらっしゃる防犯に関する活動を、これまで継続されてきた「コツ」「秘訣」は何だと思われますか？

■主な活動の「コツ」「秘訣」

押し付けや強制をせず、無理のない範囲で活動すること、参加者の健康と地域の親睦を前面に出して活動することと回答した団体も多い。

成果や、町内の犯罪状況などの情報共有が大切であるといった回答も多い。

また、「住み良いまち」「安全・安心なまち」を目指し、まちを愛する心を持ち続け、熱意・努力・根気で頑張ることが自分たちの務めであるということを実感することと答えた団体や、熱心なリーダーによってまとまっているという回答もあった。

- ・押し付けるようなことはせず、無理のない範囲で、お願いしている。
- ・自主集合で参加を強制せず、1人しか集まらない場合は中止にしてもらうなど、マイペースさを大事に実施してもらっている。
- ・防犯活動をしている人達への感謝を忘れないこと。
- ・健康や運動を兼ねて誘うと、女性や若い人などの今までなかった層からの参加者が得られた。
- ・メンバー同士での世間話や、防犯パトロール後のお茶会などでコミュニケーションをとる。
- ・活動報告会の実施、活動報告集等を作成し情報共有と意識の向上を図っている。
- ・活動が盛んになったため、新聞やタウンニュース、広報などに取り上げられ、他の地域の団体と情報交換、活動共有ができるようになった。
- ・子どもたちが一緒にパトロールやあいさつ運動をしてくれるのでモチベーションになる。
- ・他の団体と連携することによる人材発掘、情報共有。

④今後、現在の活動をどのように展開していきたいとお考えですか？

■具体的な取組内容

基本的には、現在の活動を継続していくと考えている団体が多い。パトロール数については現状維持か、回数を増やしたいという意見が多かった。また、活動は定着してきたが、マンネリ化してきており、新たな取組を検討していきたいという団体もあった。

一方で、活動する人たちの高齢化や参加者の減少を懸念する団体も多く、団塊の世代や、若い世代の参加を望む声が多い。

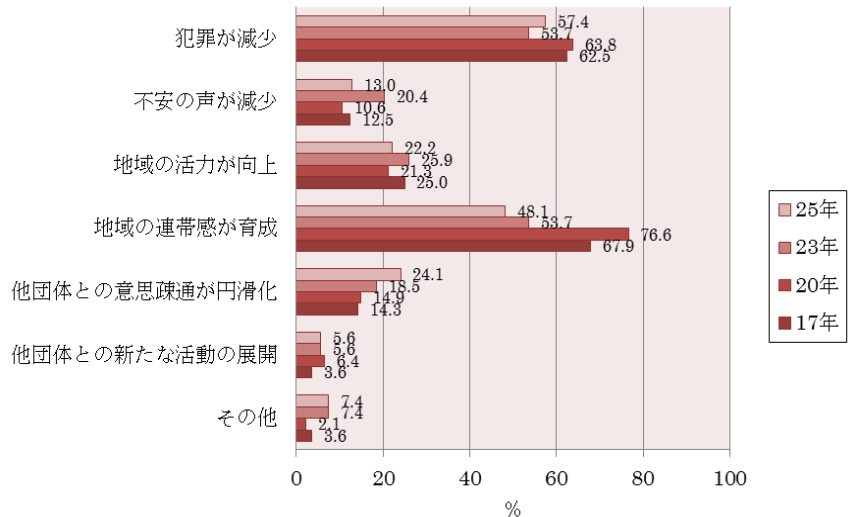
- ・あいさつ運動を展開していきたい。
- ・活動の担い手、資金、情報伝達方法を確保したい。
- ・他の地域のより良い活動を知りたい。
- ・防犯指導員の経験を聴取し、引き継いでいきたい。
- ・声かけ運動により、地域密着化を進めたい。地域の輪の形成は災害時にも役立つと考えている。
- ・新住民の若い世代と交流を図っていく。

(2) 活動における課題

①現在取り組んでいらっしゃる防犯に関する活動により、成果が上がったと感じていらっしゃることはありますか？（二つに○を付けて下さい）

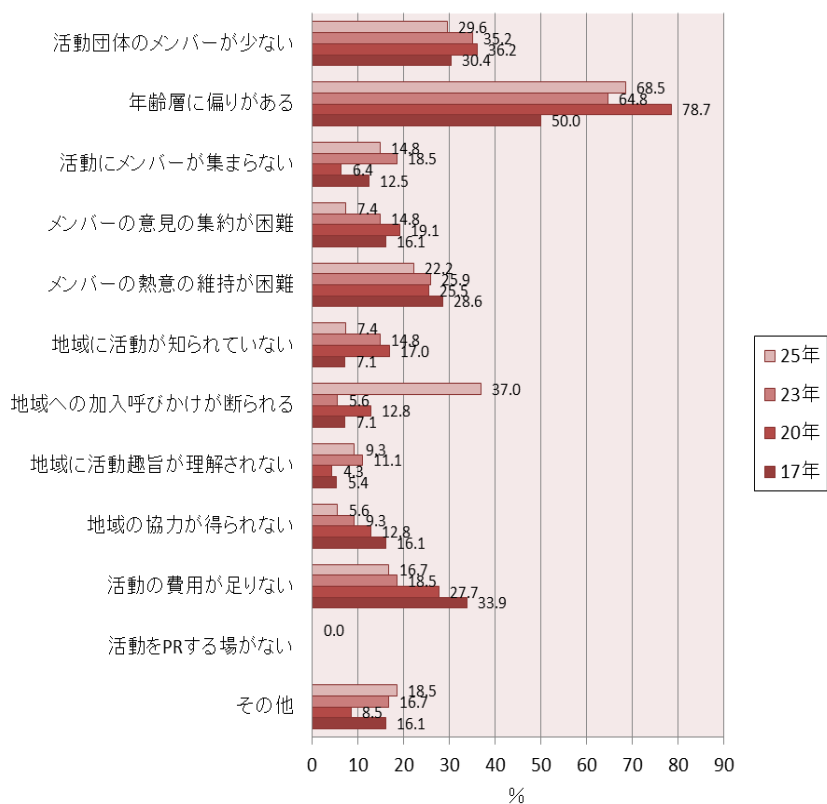
最も成果が上がったと感じていることは、「犯罪が減少」で、25年調査では53.7%の回答率を示しており、次いで「地域の連帯感が育成」が48.1%となっている。

今回24.1%の回答のあった「他団体との意思疎通が円滑化」は、過去3回を通して増加を示している。



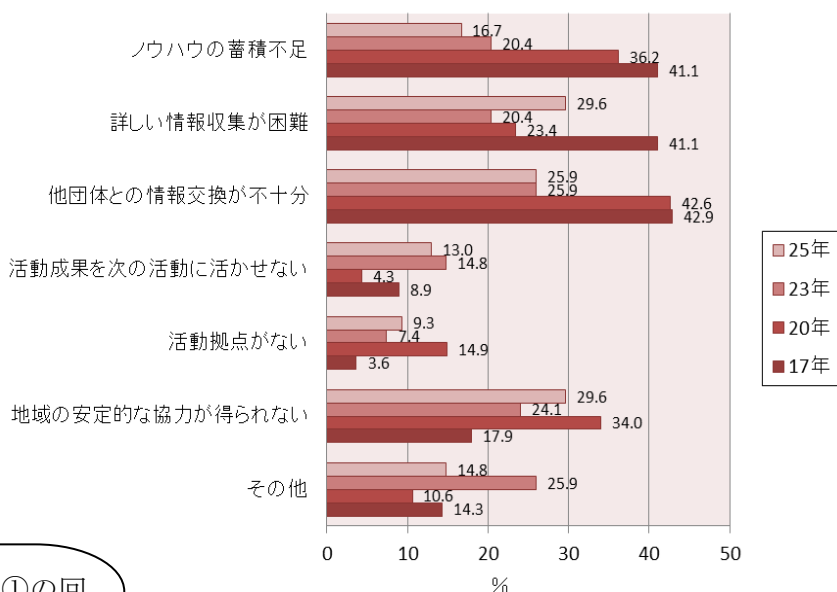
②団体の運営や活動における悩みは何ですか？（三つに○を付けて下さい）

悩みの第1位は、「年齢層に偏りがある」の68.5%で、毎回の調査で1位の回答となっている。次いで、「地域への加入の呼びかけが断られる」が37%と、前回より30ポイント以上増加しており、「活動団体のメンバーが少ない」が毎回3割程度悩みとして挙げられている。人材発掘、次世代への引継に苦勞していることが伺える。



③効果的な防犯活動を行っていく上で課題となることは何ですか？（二つに○を付けて下さい）

課題の第1位は「地域の安定的な協力が得られない」「詳しい情報収集が困難」でともに29.6%の回答があった。「他団体との情報交換が不十分」は毎回高い回答率であり、前回の回答率と変わらず25.9%である。

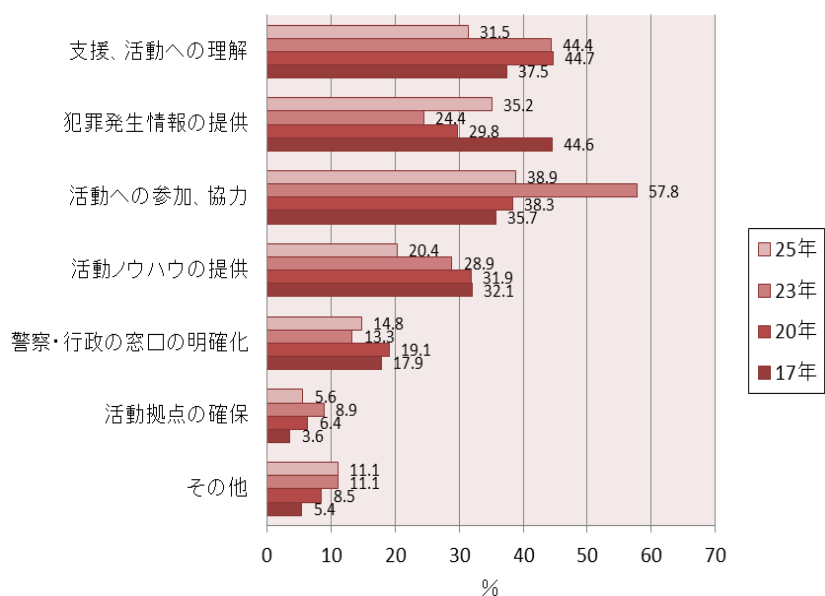


他団体との情報交換ですが、①の回答では「他団体との意思疎通が円滑化」の回答が過去3回を通して増えています。地域で活発に交流をしようと試みていることが伺えます。



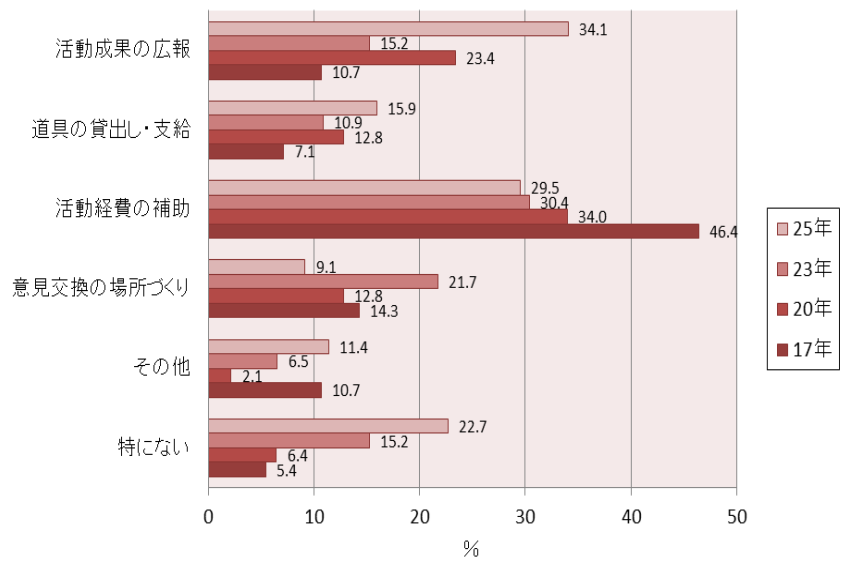
④警察や行政と連携していく上で要望することは何ですか？（二つに○を付けて下さい）

警察・行政との連携に係る要望の第1位は「活動への参加、協力」で38.9%の回答率であった。続いて「犯罪発生情報の提供」が35.2%。ついで「支援、活動への理解」31.5%である。



⑤防犯活動の活性化のために必要な行政等の支援は何ですか？（一つに○を付けて下さい）

必要な支援として「活動成果の広報」が34.1%と前回の倍以上の回答率である。ついで「活動経費の補助」は25年度調査では29.5%で、毎回高い回答率である。次いで、「道具の貸出・支給」が続いており、活動に要する経費・資金に対する支援が求められていることがわかる。



各項目の具体的な内容

貸出し・支給	防犯ジャンパー・ベスト、腕章、懐中電灯、赤色安全棒、トランシーバー、防犯ステッカー等
経費の補助	活動用資材購入費、防犯活動用の飲料代、研修費、防犯カメラ増設費
その他	町内で発生している事件のタイムリーな情報、警察に地域で行っているパトロールへ参加してもらいたい

(3) 平成23年度時点と比べ、地域の防犯活動で変化したことはどのようなことかご記入ください。
(新しい取組、意識の変化、犯罪不安の状況等)

良くなった点

主な内容の要旨(抜粋) ※回答内容を下記のとおり分類しました。

- 「環境・設備面の変化」
 - ・防犯灯がLED灯になり、街が明るくなった。
 - ・交番が駅前に移設されること。
 - ・防犯カメラやセンサーライトの設置が増えた。
- 防犯活動上の変化
 - ・パトロールと同時に防犯灯の確認をするようになり、適切な維持管理ができるようになった。
 - ・パトロールに参加する人が増加した。
 - ・地域の子供たちが自主的にパトロールに参加してくれるようになった。
 - ・他の地域との共同防犯活動が定着した。
 - ・毎月警察署から発生している犯罪について資料をもらい、自治会町内会で回覧している。
 - ・オレオレ詐欺について意識が薄いので会合等で根気よく話を出しているため、効果が上がってきている。
- 地域の防犯意識の変化

- ・パトロールを実施することにより、街のいろいろなことに気づき、気を配るようになった。
- ・防犯パトロール参加者が増加するのに併せて、防犯に対する住民の関心度が向上した。
- ・防犯活動を通じて近隣とのつながりが増え、地域への意識が強まった。
- ・防犯パトロールに対して、地域の人から感謝の言葉がかけられている。
- ・夏場の夜間などに、公園に集まる少年少女が少なくなった。
- ・活動が地域住民に理解されるようになり、連帯感が強まったと感じる。
- ・警察署等から防犯に係る資料・情報を入手し、地域住民に犯罪情報を周知することにより、地域の防犯意識が向上した。

■犯罪発生の状況

- ・空き巣などの自治会町内会で発生する犯罪が減少した。
- ・小学校の登下校時の見守り活動により、不審者がいなくなった。

□悪くなった点

主な内容の要旨(抜粋) ※回答内容を下記のとおり分類しました。

■防犯活動上の変化

- ・防犯活動参加者の高齢化により、見守り活動が終了したり減少したりしている。
- ・防犯活動がマンネリ化してきている。新たな取組を考える必要があると思う。
- ・新規参入者を確保できない。

■地域の防犯意識の変化

- ・犯罪発生件数が減少してきたせいか、やや切迫感に欠けるような感じがする。
- ・昔のように近所付き合いが少なくなり、交流や親睦が図れなくなってきた。

(4) 自由記載の内容

地域において防犯に関する活動を行うことについて、日頃からお考えになっていることなどを自由にお書き下さい。

主な内容の要旨(抜粋) ※回答内容を下記のとおり分類しました。

■防犯の取組に必要な考え方

- ・活動を引き継いでくれる世代へのアプローチが必要。
- ・科学的な防犯抑止、予防体制を構成することが大切。
- ・街の防犯活動に美化活動は必要不可欠と思う。花壇の整備やごみの処理は大事。
- ・一人一人が他人事と思わず防犯に関心を持ってもらうこと。
- ・若い人をお祭り等のイベント時にリーダー役を依頼して、地域に溶け込めるようにしている。



■防犯の取組における問題点

- ・予算が少ないため、防犯グッズや備品の購入ができない。
- ・特に若い世代、新規住民に防犯に無関心な人が多く、どのように働きかけるか苦慮している。

■行政・警察に対する意見

- ・行政は支援内容をもっと深く検討してほしい。また、調査が多く、実際のアクションが少ない。
- ・交番の警察官の協力と、パトロール量の増加をしてほしい。
- ・地域防犯活動は、警察との連携が最も重要である。
- ・警察署からもらう広報用の文例をもっと地域住民にわかりやすい文章にしてほしい。

4 用語集

用語	用語の 類型	関連 ページ	用語の解説
青色回転灯	防犯ア イテム	5, 12 18, 51 53	青色の光を放つ回転灯。 一定の要件を充足する場合には、自主防犯 パトロールに用いる自動車に青色回転灯を 装備することが可能です。  青色回転灯
空き巣	罪種・ 手口	3, 11 23, 33 34, 37 41, 46 54, 59	留守の家を狙って侵入し金品等を盗むこと。窃盗犯の一種。
ガラス破り	罪種・ 手口	22, 37	窓や玄関のガラスを割り、解錠して侵入する侵入手口です。 ガラス破りの侵入手口には、ガラスにヒビを入れ音を出さない ように破壊する『こじ破り』、破壊音をあまり気にせずにガラ スを破壊する『打ち破り』、温度変化によりガラスに穴を空け る『焼き破り』があります。
腰高窓	その他 の用語	22, 37	窓の最下部が人の腰の高さ程度の窓のこと。
防犯マップ	防犯ア イテム	5, 13	地域における犯罪発生箇所や、防犯上危険であると考えられる 箇所を記載した地図で、ここではさらに、それに対する対策を 記載した地図も含めて防犯マップと呼んでいます。他に「危険 箇所マップ」「安全マップ」などと呼ぶものもあります。地域 の住民等が自ら作成を行ったり、作成したマップを地域の住民 等に配布することにより、地域の防犯力向上が期待できます。
刑法犯	罪種・ 手口	25, 26 29, 31 45	刑法に規定する罪（道路上の交通事故に係るものは除く）のほ か、爆発物取締罰則、決闘罪ニ関スル件、暴力行為等処罰ニ関 スル法律、盗犯等ノ防止及処分ニ関スル法律、航空機の強取等 の処罰に関する法律、火炎びんの使用等の処罰に関する法律、 航空の危険を生じさせる行為等の処罰に関する法律及び人質 による強要行為等の処罰に関する法律に規定する罪を言いま す。
刑法犯包括罪種	罪種・ 手口	26	刑法犯のうち、被害法益、犯罪態様等の観点から類似性の強い 罪種を包括したもの。具体的には「凶悪犯(殺人、強盗など)」「 粗暴犯(暴行、傷害など)」「窃盗犯(窃盗)」「知能犯(詐欺、 横領など)」「風俗犯(賭博、わいせつ)」があります。
サムターン回し	罪種・ 手口	22	「サムターン (Thumb turn)」とは、扉の内側にあ る錠の施解錠のためのつまみのこと。サムター ン回しは、外部から何らかの方法でサムターンを回 して解錠し、侵入する手口です。  サムターン
自転車盗	罪種・ 手口	2, 14, 20, 33, 36, 37	所有者が明確である自転車を盗むこと。たとえ何日間も放置さ れている自転車でも、その自転車にはきちんと所有者がおり他 人が勝手に乗り回すことはできません。
忍込み	罪種・ 手口	3	深夜から未明にかけ、家人が就寝中の住居に侵入して金品等を 盗むこと。窃盗犯の一種。出くわすと「居直り強盗」になる場 合もあり危険です。
車上ねらい	罪種・ 手口	3, 31 34, 35 36, 41	駐車場や路上に駐車した車をこじ開け、中にある金品等を盗む こと。

用語	用語の種類	関連ページ	用語の解説
スキミング	罪種・手口	3	クレジットカードやキャッシュカードの磁気記録情報を不正に読みだして、カードを複製すること。
体感治安	体感治安	12	刑法犯認知件数などの統計数字上の「指数治安」に対し、人々が日常生活を送る上で犯罪の被害に遭うのではないかと不安を感じる治安情勢のこと
認知件数	その他の用語	4, 25 26, 29 31, 45	犯罪について被害の届出、告訴等により、警察において発生を確認した事件の数のこと。
掃き出し窓	その他の用語	37	窓の最下部が床面の位置まであり、開口する窓のこと。もともとは、掃除の際にほうきなどでホコリを掃き出せるところからこう呼ばれました。
犯罪率	その他の用語	29～36	一定の単位人口あたりに、1年間にどれだけ犯罪が発生していることになるのかを計算したもの。
ピッキング	罪種・手口	23	鍵穴に特殊な工具（耳搔き状の金属棒）を差し込み、不正に錠を開け、家の中に侵入する手口です。
振り込め詐欺	罪種・手口	2, 3 46, 48	電話やはがきなどの文書などで相手をだまし、金銭の振り込みを要求する詐欺事件の総称です。「オレオレ詐欺」や「還付金詐欺」、「架空請求詐欺」、「融資保証金詐欺」の手口があります。
防犯拠点	防犯アイテム	5, 16 48, 51	防犯パトロールをはじめとする地域の防犯活動の拠点となる施設。横浜市では、空き店舗等を活用した地域の防犯拠点を市内各地域に設置し、地域における市民の自主防犯活動を支援する、地域防犯拠点設置支援事業を行っています。
防犯灯	防犯アイテム	5, 20 40, 46 47, 51 52, 53 58,	犯罪等から市民の安全を守る目的で、横浜市防犯協会連合会及び横浜市が設置し、自治会・町内会（蛍光灯型防犯灯）及び横浜市（LED型防犯灯）が維持管理を行う照明。
メーリングリスト	防犯アイテム	13	電子メールを使ったインターネット活用法のひとつで、複数の人に同じメールを配送できる仕組みのこと。ある特定のあて先にメールを送ると、そのメールはあらかじめ登録されている人全員に配送されます。
面格子	その他の用語	22	住宅の窓の外側に防犯などを目的として取り付けられた金属製の部材のことです。
ワークショップ	まちづくり	18, 20	参加者がともに討議したり現場を見たりするなどの協働作業を通じて、参加者の前向きな意欲を引き出し、お互いの考え方や立場の違いを学び合いながら、提案をまとめる手法であり、その集まり（場）のこと。

注) ここで記している「用語の解説」は、本プランにおける用語としてどのように用いているかを解説したものです。

5 策定経過

平成 17年	プランの策定検討
5月	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">安全・安心プラン(仮称)策定委員会設置</div> <ul style="list-style-type: none"> ◆第1回検討部会(5/9) ◆第1回策定委員会(5/17)【横浜市の現状と取組、基本的な枠組み、検討の進め方と構成】
6月	<ul style="list-style-type: none"> ◆第2回検討部会(6/14) ◆第2回策定委員会(6/21)【防犯活動の状況と課題、プラン構成と本日の論点】
7月	<ul style="list-style-type: none"> ◆第3回検討部会(7/15) ◆第3回策定委員会(7/21)【プラン素案の概要】
8月	<ul style="list-style-type: none"> ◆第4回検討部会(8/23) ◆第4回策定委員会(8/29)【プラン素案の概要、行動計画(H17-19年度)の概要】
9月	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">プラン(素案)記者発表</div>
10月	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">プラン(素案)の公表 市民意見募集(10/3~10/17)</div> <ul style="list-style-type: none"> ◆第5回策定委員会(10/24)【よこはま安全・安心プラン(案)について】
11月	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; background-color: #cccccc;">プラン確定</div>

平成20年3月	プランの改訂	令和4年7月	資料編の更新
平成24年2月	プランの改訂		
平成26年3月	プランの改訂		
平成29年3月	プランの改訂		

6 委員会名簿(17年度プラン策定時)

■よこはま安全・安心プラン(仮称)策定委員会

	役職	氏名
	日本ガーディアン・エンジェルス 横浜支部長	坂井 清美
	瀬谷区女性地域安全委員会 会長	清水 靖枝
	横浜市PTA連絡協議会 副会長	鈴木 由香
	横浜市町内会連合会 副会長	宮嶋 修
座長	拓殖大学政経学部 教授	守山 正
副座長	明治大学理工学部 助教授	山本 俊哉
	神奈川県警察本部生活安全総務課 警部	市川 弘幸
	金沢区長	横松進一郎

■検討部会

◇中区・金沢区・泉区 地域振興課長
◇都市経営局 政策課担当課長
◇総務局 危機管理課長
◇財政局 総務課長
◇資源循環局 業務課長
◇経済局 商業・サービス業課長
◇まちづくり調整局 住宅整備課長 企画管理課長
◇道路局 バリアフリー対策等担当課長
◇都市整備局 総務課長
◇消防局 企画課長
◇教育委員会事務局 総務課学校防犯担当課長
◇市民局 青少年課長 防犯・交通安全支援課長

振り込め詐欺防止五箇条

一、「携帯の番号が変わった」はサギと疑うべし

息子さんやお孫さんの変わる前の番号に
電話してください。

一、「かばんをなくした」はサギと疑うべし

犯人は「リフォーム代、車を買う、葬式に使う」
と銀行で言われます。

一、「名義を貸してほしい」はサギと疑うべし

後日、名義貸しは犯罪と脅されます。

一、「ATMで還付手続きはできない」ものと思得よ

ATMで医療費等の払い戻しはできません。

一、「留守番電話は有効」な防御なり

犯人は声を録音されるのを嫌がります。

不審な電話を受けたら警察へ通報してください!!

お問い合わせ先

横浜市市民局地域防犯支援課

〒231-0005 横浜市中区本町 6-50-10

TEL. 045-671-3705 FAX. 045-664-0734

E-mail : sh-chiikibohan@city.yokohama.jp

ホームページ

<http://www.city.yokohama.lg.jp/shimin/bouhan/>

発行：横浜市市民局地域防犯支援課

発行日：令和4年7月